

2018年度の山口大学の国際交流活動

山口大学国際戦略室



目次

はじめに	1
第1章 2018年度の国際戦略室の活動	2
1. 国際戦略室.....	3
2. 山口大学 HP「トピックス」で見る 2018年度の本学の国際連携活動.....	4
3. 国際交流協定	22
(1) 2018年度の国際交流協定の締結等	22
(2) 大学等間国際交流協定	23
(3) 部局等間国際交流協定	27
4. 海外拠点	29
5. 本部への海外からの来訪者	30
6. 本学学長の海外訪問	32
7. 海外協定校との連携プロジェクトの推進.....	32
8. 研究者の交流.....	33
9. 職員の研修.....	34
10. 学内の国際化推進体制の整備	36
11. 海外同窓会活動	37
第2章 2018年度の留学生部門の活動	38
1. 山口大学 HP「トピックス」で見る 2017年度の留学生部門の活動	42
2. 留学促進のための体制整備	45
3. 海外学生交流促進のための広報活動について	45
4. 留学生センターにおける学生派遣及び受入について	46
第3章 2018年度の学術研究部門の国際交流活動.....	47
独立行政法人日本学術振興会助成	48
1. 論文博士号取得希望者に対する支援事業.....	48
【大学院創成科学研究科（工学系） 小河原加久治教授】	48
2. 研究拠点形成事業	48

①【大学院創成科学研究科（農学系） 山田守教授】	48
第4章 2018年度の各部局の国際交流活動	52

はじめに

山口大学は「発見し・はぐくみ・かたちにする 知の広場」を理念として、人間力とバイタリティーあふれる人材を輩出できる大学、教員と学生が共に育つ「共育できる大学」を目指しています。この「共育」には、大学と地域が連携してグローバル化の中で共に学び発展すること、留学生や研究者を迎え、送り出すことによって、それらの国々と日本が相互の理解を深め、協力し合って平和で持続性のある世界を目指して手を携えるという意味も含まれています。これらの認識に基づき、本学はグローバル化を総合的に推進するとともに、留学生を含む全ての大学人が、互いの歴史、文化、民族、言語、宗教などの違いを超えて、共感・共鳴・協奏できる「ダイバーシティ・キャンパス」の実現を目指しています。

山口大学は、大学グローバル化推進に際し、学長のリーダーシップが十分に発揮できる意思決定及び組織体制を構築するため、2016年6月に「国立大学法人山口大学における国際戦略に関する規則」を制定し、学長のリーダーシップのもと、国際戦略室は関連する学内外の組織とも連携を深めながら、大学の国際化について様々な議論を重ね、大学グローバル化に向けた活動を推進しております。2018年度は、明治維新150周年を記念して、長州ファイブの縁の地である英国にて「維新150周年記念シンポジウム」を、海外協定校であるユニバーシティカレッジロンドン及び鹿児島大学と共同で開催しました。これを契機として、英国・欧州との学生交流や研究交流が活性化されることを期待しています。

本報告書では、第1章にて本学における国際化に向けた取り組みを2018年度の国際戦略室の活動をもとに取り纏め、留学生部門、学術研究部門にて実施された国際交流事業をそれぞれ第2章、第3章に掲載いたしました。また第4章には、各部局ごとの国際活動の取り組みを掲載しております。

この報告書により、学内のみならず本学に関係される多くの方々、大学を取り巻く地域の方々に、本学の国際化の状況について知っていただけたら幸いです。同時に、報告書をお読み頂いた方々から、多くの貴重な意見を頂くことができれば、本学の国際化推進に役立つものと期待しています。これからも大学内外の関係者の皆様にお知恵をお借りしながら、積極的に山口大学の国際化を推進してまいりますので、皆様方の力強いご支援をお願いいたします。

国際戦略室

第 1 章 2018 年度の国際戦略室の活動

第1章 2018年度の国際戦略室の活動

1. 国際戦略室

国際戦略室の組織と役割

2016年5月30日に、本学における教育、研究及び社会連携活動のうち国際的な活動に係る戦略の企画、立案及び実施に向けた方策を決定するため、「国立大学法人山口大学における国際戦略に関する規則」を制定した。本規則により、本学の国際戦略に関しては学長が決定を行い、国際戦略に基づいた本学の教育研究の国際交流及び研究成果を基盤とした国際社会への貢献を推進するため、山口大学国際戦略室が置かれた。

国際戦略室は、国際連携担当副学長及び教職員を構成員とし、以下の業務を行う。

- (1) 本法人の国際連携に係る企画、立案及び実施に関すること。
- (2) 国際交流に関する情報の収集、整理及び提供に関すること。
- (3) 国際協力・国際貢献活動に関すること。
- (4) 国際交流協定に基づく活動の推進に関すること。
- (5) 海外に向けた本学の国際交流に係る情報の発信に関すること。
- (6) その他前条の目的を達成するために必要な事項

毎月1回構成員による国際戦略室会議を開催し、上記業務に関する事柄について協議及び情報共有を行っている。

また、国際戦略室の活動を支援する事務組織として、学生支援部国際交流課が置かれ、国際戦略室と共に本学の国際化に関する企画立案及び実施を担っている。同課は2018年7月に国際企画課と学生支援課留学生交流係を統合して学生支援部国際交流課として設置され、国際業務に係る事務組織を一元化することにより、大学の国際化推進に関する企画立案とその実施に関して、留学生担当部門の意見が反映しやすい体制を整備した。加えて、本学の国際化推進の状況把握及び部局間の情報共有、並びに国際化に係る全学方針の学内共有を徹底するため、全ての学部及び大学院研究科から主事を選出し、国際戦略室の機能強化を図った。

2. 山口大学 HP「トピックス」で見る 2018 年度の本学の国際連携活動

○ 重点連携大学事業 活動報告会を実施しました

5月29日（火）と6月4日（月）の2日間、学長，副学長，シニア URA 及び国際戦略室員等の参加のもと，平成 29 年度重点連携大学事業活動報告会を開催しました。

本学では，研究分野を主体とした国際連携活動を強化することにより大学の研究レベルの高度化を図ると共に，学術を通じた教育支援及び国際貢献をおこなうことを目的として，特に本学の研究力向上につながると思われる海外の大学を重点連携大学として選定し，選定大学との国際連携活動に対して，支援を行っています。

報告会では，「重点連携大学」事業のもと，共同研究を行ってきた 11 の研究チームの代表者から，昨年度の重点連携大学の研究者との共著論文の発表状況に加えて，外部資金の獲得状況や大学院生等を含めた研究者の交流状況等，活動内容とその成果，そして今後の展望等について報告がありました。

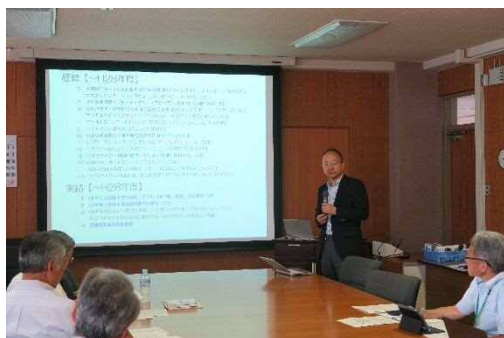
各研究チームの報告後に行われた質疑応答では，交流内容や研究内容について出席者から多くの質問があり，発表者との間で活発な意見交換が行われました。学長及び副学長からは，重点連携大学事業を通して，相手大学研究者との共著論文の発表や外部資金の獲得に向けて継続的に努力を欲しいとのメッセージが送られました。

本学では，平成 29 年 5 月に重点連携大学の再選定を実施し，現在，13 の大学等を本学にとっての重点連携大学として指定すると共に，11 の重点連携大学事業に対して支援を行い，大学の国際研究力を強化することを目標としています。本学の研究分野での強みを，重点連携大学事業を通じてグローバルに発展させ，国際社会へ貢献すると共に，学生や地域の皆さまにとって魅力のある大学となるよう，取り組んでまいります。

報告が行われた重点連携大学とのプロジェクトは，以下のとおりです。

報告者 所属・職・氏名	相手先大学名	プロジェクト名
医学系研究科・ 教授・中村 教泰	南カリフォルニア研究所群 (米国)	難治がん克服に向けた南カリフォルニア研究所群との国際重点連携
医学系研究科・ 教授・篠田 晃	ミシガン大学 (米国)	アポトーシスや神経変性に対する STB/HAP1 と NDLR の細胞保護作用と病態制御
創成科学研究科(工)・ 教授・清水 則一	ウダヤナ大学 (インドネシア)	国際共同教育，共同研究による衛生リモートセンシング人材育成
創成科学研究科(工)・ 教授・上村 明男	UCL(ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン) (英国)	重点連携大学 UCL

創成科学研究科(工)・ 准教授・熊切 泉	サラゴサ大学 (スペイン)	Working Together, Creating Excellence
創成科学研究科(工)・ 教授・進士 正人	梨花女子大学校 (韓国)	梨花女子大学校と山口大学との連携プロジェクト
創成科学研究科(農)・ 教授・山田 守	カセサート大学 (タイ)	熱帯性環境微生物資源の開発研究
	チュラロンコン大学 (タイ)	
創成科学研究科(農)・ 教授・執行 正義	ワーゲニンゲン大学 (オランダ)	健康機能性を有する医薬原体・生鮮食品の高効率生産を 目指す植物医科学研究
東アジア研究科・ 教授・葛 崎偉	山東大学 (中国)	山大による東亜社会システム科学に関する研究
技術経営研究科・ 教授・上西 研	マレーシア工科大学 (マレーシア)	国際連携知財講座を核としたアジアにおける MOT 教育研 究の推進
時間学研究所・ 教授・藤澤 健太	モスクワ大学 (ロシア)	時間学に関する学術交流事業



○ タイの農学研究機構 (ARDA) より岡学長に表敬訪問がありました

6月11日(月)に、本学の国際交流協定機関である、タイの農学研究機構 (Agricultural Research Development Agency (ARDA)) より Panpimon Chunyanuwat 事務局長含め5名が来学し、岡正朗学長を表敬訪問しました。

ARDAは将来性のある農学研究プロジェクトに対し、資金援助を行うことを主な機能として、2003年に設立されたタイの公的機関です。本学とARDAとは2008年8月に大学等間国際交流協定締結以来、大学院創成科学研究科農学系域の山田守教授を中心に継続して交流を行っています。山田教授らによる、「ASEAN バイオマス活用に向けた耐熱性微

生物を利用するバイオ燃料等変換プロセスの開発」は、2016年度 e-ASIA 共同研究プログラムに採択され、科学技術振興機構（JST）等とともに ARDA から支援を受け研究が行われています。今回は山田教授を中心とした研究プロジェクトに対する今後の連携についての協議のため、来学されました。

学長表敬の場では、Panpimon Chunyanuwat 事務局長より、ARDA のサポートの仕組みやタイの研究者の男女比が同じであることなどが紹介されるとともに、上記プロジェクトに関する本学からの農学分野での技術的サポートに対しお礼が述べられ、ARDA として今後も支援を続けていきたいとの言葉が述べられました。最後にこれからも充実した交流を行っていくことを両者で確認し、懇談は締めくくられました。

今回の訪問をきっかけに、農学分野でタイと本学との研究がより一層充実することが期待されます。



○ 維新 150 周年記念国際シンポジウムを英国にて開催しました

6月22日（金）、英国ロンドン在英日本国大使館において、山口大学、ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン（UCL）、鹿児島大学、在英日本国大使館が共催して「維新 150 周年記念国際シンポジウム—安全・安心かつ持続可能な未来に向けての最新科学技術」を開催しました。

本シンポジウムでは、最新の宇宙科学技術、リモートセンシング技術、環境・防災技術をキーテクノロジーとして、日英の研究者が、安全で安心、かつ持続可能な人類社会を実現するための最新の研究動向に関する講演を行いました。





シンポジウムの冒頭で、本学の岡正朗学長は、150年以上前に、言葉も文化も異なる日本の若者たちを快く受け入れ支えてくださった英国、UCL、そしてUCLのアレキサンダー・ウィリアムソン教授夫妻に感謝の意を表すとともに、明治維新から150年となる節目の年に、これからの150年を見据えたシンポジウムが日英の関係者の協力のもとに開催されることへの期待を述べました。

また岡学長は、本シンポジウムに先立ち、UCLにおいて前述の3大学の学長による懇談、さらにはケンブリッジにてSanger Institute, MRC Laboratory of Molecular Biology, 及びCancer Research UK, Cambridge Univ.で活躍する日本人研究者を訪問し意見交換を行うなど、英国の教育研究機関との交流を深めました。

滞在最終日には、岡学長ら山口大学関係者は、ロンドン郊外にあるブルックウッド墓地に赴き、アレキサンダー・ウィリアムソン夫妻と、夫妻が世話し惜しくも英国で客死した日本人留学生の墓参りを行い、「夫妻の墓は日本人留学生と同じ墓地にあり、如何に教え子である日本の若者を慈しんでいたかがえます」という案内人の方のお話に、あらためてウィリアムソン夫妻の深淵な人間愛に強い感銘を受けました。



この度の英国での国際シンポジウムや英国大学関係者等との交流を契機に、山口大学は英国との結びつきを一層強化してまいります。

○ 共同獣医学部がアイルランガ大学（インドネシア）獣医学部と国際交流協定（MOU）並びに学生交流協定（SEA）を締結しました

7月4日(水)、本学共同獣医学部 佐藤晃一学部長が、インドネシア・アイルランガ大学（Universitas Airlangga）を訪問し、学部間国際学術交流協定並びに学生交流協定の締結調印式を執り行いました。

アイルランガ大学とは、これまでも本学大学院連合獣医学研究科を介して多くの研究交流実績や大学院生の受け入れを行ってきました。今後は、共同獣医学部並びに大学院共同獣医学研究科として、教育と研究の両面から交流を深め、両獣医学部の発展を目指すこととなります。



○ マレーシア工科大学マレーシア日本国際工科院（MJIT）精密機械工学科の学生が大学院技術経営研究科の教育プログラムに参加しました

7月9日（月）、本学協定校であるマレーシア工科大学内にある、マレーシア日本国際工科院（MJIT）精密機械工学科の2年生39名が吉田キャンパスを訪れ、三浦房紀副学長（国際連携担当）を表敬訪問しました。今回訪れた39名は、本学大学院技術経営研究科で実施された「グローバルモビリティプログラム in 山口大学」に参加するため来日したものです。

本プログラムは、同研究科が2017年に開始した、「Technovator：技術を核にイノベーションを主導する人材」の育成を目指す教育プログラムです。本学がMJITから学生を受け入れると同時に、本学工学部や創成科学研究科の学生をグローバルエンジニア育成短期プログラムでMJITに派遣し、双方向で学生派遣・受入プログラムを行っています。

今年度は、約3週間の滞在期間中に、ビジネスファイナンスやテクノロジーマネジメントならびに創造的デザインの講義・演習と日本語研修を受講し、山口県宇部市（宇部興産）、広島県広島市（マツダ本社工場）、福岡県北九州市（トヨタ自動車九州宮田工場）を訪問して企業訪問・工場見学等を行いました。

表敬訪問では、三浦副学長から、今年5月にMJITで1週間講義を実施した際のエピソードが語られるとともに、MJITには本学の国際連携オフィスが設置される等、本学とは深いつながりがあること、3週間の山口大学滞在中には、研修プログラムや文化交流などを通じて多くを吸収し、実りある研修にしてほしいとの激励の言葉が述べられました。



本学はこれからも協定校と連携して短期の学生受入プログラムを企画し、多くの海外学生に本学で学んでもらうことにより、大学のダイバーシティ化を積極的に推進してまいります。



○ ガジャマダ大学（インドネシア）より岡学長及び三浦副学長に表敬訪問がありました



7月10日（火）に、本学の国際交流協定校である、ガジャマダ大学（Gadjah Mada University）（インドネシア）より Siti Isrina Oktavia Salasia 獣医学部長を含め4名が来学し、岡正朗学長及び三浦房紀副学長を表敬訪問しました。

ガジャマダ大学は、1949年に設置されたインドネシアのジョグジャカルタにある国立大学で、18の学部を持つ総合大学です。ガジャマダ大学と本学は、平成20年10月に大学間国際交流協定締結以来、学生の留学や、教職員の研修をはじめとした様々な交流を継続して行っているところです。

共同獣医学部では、「インドネシアにおける国際的獣医学教育研究者育成プログラムの構築」事業で、文部科学省の機能強化経費の採択を受けており、欧州獣医学認証（EAEVE）取得に向けて構築してきた国際通用性のある獣医学教育プログラムを基にインドネシアにおける獣医学教育研究者育成プログラムを構築し、アジアにおける獣医学教育プログラムの標準化を目指しています。



表敬訪問の場では、Siti Isrina Oktavia Salasia 獣医学部長から、ガジャマダ大学獣医学部の紹介と、本学及び日本国内の他大学との連携状況などについて説明があり、その後、本学と取り組む「AJIVEプログラム」やJICA事業について、また、両大学間の協定継続の方向性などについて、懇談が行われました。

今回の訪問をきっかけに、獣医学分野でのインドネシアと本学との教育・研究交流がより一層充実することが期待されます。



○ 時間学国際シンポジウム2018「中世日本の時間意識」を開催しました

8月1日（水）から8月3日（金）にかけて、本学吉田キャンパスにて本学時間学研究所とチューリッヒ大学の共同開催（共催：日本時間学会）で、時間学国際シンポジウム2018「中世日本の時間意識」が開催されました。このシンポジウムは時間学研究所客員教授のシュタイネック・ラジ先生（チューリッヒ大学）が行っている欧州研究会議の助成金（ERC Advanced Grants）によるプロジェクト「中世日本の時間意識（TIME J）」に連動しており、多様な分野の研究者25名が国内外から参加しました。

中世日本の社会で時間がどのように表象・知覚・経験されていたのかについての多角的な検討を目指したこのシンポジウムは、「暦」「兵学」「朝廷と武家」「村落」「宗教」「身体」「市場」という7つのテーマから構成され、テーマごとに報告と指定討論者によるコメント、ならびに全体的討議を行う、という形式で進められました。1日目は、エム

デ・フランツ先生（山口大学），小山恵美先生（京都工芸繊維大学）をコメンテーターとして，「暦」「兵学」「朝廷と武家」をテーマとして3名の研究者による報告が行われました。2日目は，辻正二先生（保健医療経営大学），板東洋介先生（皇學館大學）をコメンテーターとして「村落」「宗教」をテーマとした報告が7名の研究者によって行われました。最終日には，アンドレーワ・アンナ先生（ハイデルベルグ大学），コッホ・アンゲリカ先生（ゲント大学）をコメンテーターとして「身体」「市場」をテーマとした報告を5名の研究者が行った後，討議そして，佐藤弘夫先生（東北大学），板東先生，辻先生による3日間の総括が行われました。最後に，シュタイネック・ラジ先生ならびに藤澤健太所長（時間学研究所）の閉会の辞をもって，3日間にわたるシンポジウムは盛況のうちに幕を閉じました。



○ **ハワイ大学カウアイコミュニティカレッジとの大学間学生交流附属書及びカウアイ山口県人会（アメリカ合衆国ハワイ州）との連携に関する覚書を締結しました**

9月24日（月），本学の三浦房紀副学長（国際連携担当）がハワイ大学カウアイコミュニティカレッジ（アメリカ合衆国ハワイ州）を訪問し，大学間学生交流附属書調印式を行いました。

2018年8月に大学間国際交流協定を締結した，ハワイ大学カウアイコミュニティカレッジは，ハワイ州カウアイ島に立地する1965年創立の州立大学で，専門教育として，ホスピタリティ・観光学，ハワイ研究学，自然科学，植物生物学・熱帯地区農学，物理学，看護学，幼児教育学，電気工学，自動車技術学等の幅広い分野における教育・研究を行っています。

この度，同カレッジと本学との間で学生交換留学を開始するため，同カレッジにてHelen A. Cox学長，三浦副学長出席のもと，大学間学生交流附属書を締結しました。グローバル化を推進する本学では，近年インバウンドのみならずアウトバウンドの海外学生交流数が増加しており，短期・長期の海外活動に関する学生の関心が高まっています。同カレッジとの交換留学により，本学の海外学生交流がますます活発になることが期待されます。



また、同カレッジが立地するハワイ州カウアイ島には、山口県からの移民の子孫によりカウアイ山口県人会が組織されており、年間を通して活発に活動がなされています。昨年度の三浦副学長カウアイ訪問の際に、本学学生がカウアイ島に滞在する際には、同会が学生の活動を支援するとの温かい申し出をいただき、この度本学との間で両者の連携に関する覚書を締結することとなりました。9月24日のハワイ大学カウアイコミュニティカレッジとの調印式に引き続いて、同カレッジのHelen A. Cox学長立ち会いのもと、カウアイ山口県人会のCheryl Matsunami Shintani会長が本学との連携覚書にサインを行いました。

2018年は、日本からハワイへ移民が渡航して150年目となる記念の年です。山口県からも多くの移民がハワイへ労働者として移住した歴史があることから、山口・日本及びハワイの双方で、日本-ハワイの歴史について再認識し、今後の交流活性化について検討する機運が高まっています。本学も移民150年の記念の年に、山口県にとってゆかりのあるハワイの学術機関、地域団体と新たな交流を開始することで、先人が築き上げたハワイとの絆を引き継ぎ、さらに強固な関係の構築を通して、本学のグローバル化を推進してまいります。



○ シャリフ・ヒダヤトゥラー イスラム宗教国立大学（インドネシア）と大学間国際交流協定を締結しました

10月8日（月）、山口大学とシャリフ・ヒダヤトゥラーイスラム宗教国立大学（Syarif Hidayatullah State Islamic University Jakarta）（以下、UIN）との間で、大学間国際交流協定が締結されました。国際交流協定の内容については、教員間の技術交流や研究交流及び学生交流などが中心となっています。調印式には、数年前からUINを訪問し教員や学生に技術指導等を行っている本学大学研究推進機構の村田智昭准教授が出席し、UINからはDeDe学長が出席されました。



UINはインドネシア国、ジャカルタの南西部に位置し、1957年創立、現在11学部から成り立っています。インドネシア文部省管轄ではなく、宗教省管轄という珍しいタイプの大学で、教員数約1,400名、学生数約23,000名、と比較的規模の大きな大学です。宗教

省管轄ということもあり、イスラム教の教えのもとに自然科学系、人文系、経済系などの大学教育が行われています。

両国間の交流は、2010年にUINの教員を山口大学の学生として受け入れたことに始まり、学生交流や技術指導の交流が継続して行われており、こうした交流を背景に、今回国際交流協定を締結することとなりました。調印式では、UINとしても今回の協定締結を機に、さらに両大学間の交流を促進していきたいとの抱負が述べられました。

山口大学は、今後も協定校との交流をさらに充実させ、学生・教職員の国際交流を推進してまいります。



○ 海外国際連携オフィススタッフ学内研修を実施しました



10月29日（月）から11月2日（金）までの5日間、中国、インドネシア、台湾、マレーシア及びタイのアジア4か国1地域に所在する海外国際連携オフィスのスタッフを招いて、海外国際連携オフィススタッフのための学内研修を実施しました。なお、1983年に本学が初めて国際交流協定を締結した山東大学（中国）からは、交流の一環とし

て、年1回相互に職員を派遣する研修制度¹を2008年より継続して実施しており、今回、本研修も兼ねて国際学生奨学センター副所長の馬鳳偉（Ma Fengwei）氏、青島キャンパス国際事務所プロジェクト責任者の宋雅琼（Song Yaqiong）氏を受け入れました。

本学では、10月26日（金）から11月1日（木）までの間を「留学フェア」と題して派遣（交換）留学説明会、語学研修説明会及び派遣留学経験者による相談会等、学生交流を中心とした本学の国際交流に関する様々な催しを開催しました。この度のスタッフ研修は、本フェアに合わせて、海外オフィススタッフを招へいし、本学の国際化の取組や現状等、海外オフィスでの活動を実施する上で、必要な知識を身に付けてもらうことを目的として、吉田、常盤及び小串の3キャンパスツアー、各海外オフィススタッフによるオフィスの紹介、日本語授業の視察及び留学フェアでのプレゼンテーション等を実施しました。





岡正朗学長を表敬訪問した際には、海外オフィススタッフから、日ごろの活動が報告されるとともに各国・地域の日本への関心の状況等について説明がありました。岡学長からは、海外オフィススタッフに対し、本学の国際連携活動に対して感謝が述べられ、今後の活動に役立つよう本研修に取り組んでいただき、本学の国際化を推進するための提案をしていただきたいとの要望が伝えられました。

研修の最後には、三浦房紀副学長（国際連携担当）から挨拶があり、今回が初めての日本訪問であった研修生からは、自然豊かな山口大学で有意義な研修を受けることができ、今後の職務に役立て、これからも継続して盛んな交流を行っていきたいとの抱負が述べられました。

山口大学は、今後も海外国際連携オフィス及び協定校と連携を強化し、本学の国際化を促進してまいります。

「相手大学の管理運営方法等を学び比較することで、所属大学の管理運営における課題の把握や業務の改善に役立てることを目的としています。」



○ 工学部グローバル人材育成支援事業成果報告会を開催しました

11月22日(木)、常盤キャンパスにおいて工学部グローバル人材育成支援事業成果報告会を開催しました。本報告会には岡正朗学長をはじめ、堀憲次副学長、福田隆真副学長、常盤工業会藤井輝夫会長、工学部教育後援会村中博美会長をはじめ学内外から、約90名の参加がありました。

本報告会は、工学部が平成24年度から平成28年度にかけて実施した「文部科学省 経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援事業」の最終評価を今年3月に受けたことを機に開催されたものです。期間中の取組みを振り返るとともに、今後の工学部グローバル化への取組みを考えることを目的としており、専任教員による特色ある語学教育の取組みや独自開発した海外研修の成果を報告がありました。

また、本事業で支援を受けた学生の代表3名が発表を行い、学長をはじめ多くの参加者から大変感銘を受けたとの講評をありました。

引田優大さん（機械工学科4年）はUCL（ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン）への海外研修を経験した後、専任教員による語学教育を受け、さらに、独自にTOEICのスコアアップを上げる手法を考案して、わずか1ヶ月で915点を取得するに至った経緯を発表しました。相緒春菜さん（創成科学研究科建設環境系専攻修士課程1年）はシンガポールで、宮地智仁さん（創成科学研究科建設環境系専攻修士課程1年）はミャンマーで、それぞれ約1ヶ月間企業インターンシップを体験し、専門力+αとしての英語能力を現地で

実践し、本事業で培ったコミュニケーション能力や国際性の重要性についての知見を語りました。

工学部では事業終了後も継続的に高年次までの英語教育必修化や特色ある海外研修を実施しており、この積極的なグローバル人材育成の取組みが山口大学全体に展開されることが期待されます。



○ 共同獣医学部において「第1回 AJIVE シンポジウム」が開催されました

11月24日（土）に、共同獣医学部において「第1回 AJIVE シンポジウム」が開催されました。

このシンポジウムは、共同獣医学部が機能強化事業として進めている「インドネシアにおける獣医学教育研究者育成プログラムの構築」の取組の一環として、インドネシアの獣医系3大学（ボゴール農科大学、ガジャマダ大学、アイルランガ大学）の学部長等及び政府関係者をお招きし、両国間における獣医学教育研究の連携を推進するために『AJIVE※（日本-インドネシア獣医学教育研究連携会議）』の主催で実施したものです。

シンポジウムでは、冒頭、三浦房紀国際連携担当副学長から歓迎の挨拶が述べられると共に、山口大学のインドネシアとの連携協力関係の強化についての挨拶がありました。引き続き、佐藤晃一共同獣医学部長から、AJIVEの二国間における意義と今後の取組概要について説明がなされ、インドネシア各大学から獣医学教育の紹介がされた後に、本学・角川博哉准教授からインドネシアにおける牛肉生産性向上のアイデアが発表され、最後に学部の施設見学が行われました。

本学の共同獣医学部においては、今後も、AJIVEの取組を通じて、アジアにおける獣医学教育の標準化の実現を目指すことにより、アジアにおいて独自の特徴を持つ大学へ進化するためのグローバル化戦略を推進して参ります。

※AJIVE …「Association of Japan - Indonesia Veterinary Education」の略称。



○ カセサート大学（タイ）とジョイント・ディグリープログラム開設に関する協定を締結しました

12月3日（月）、山口大学において、山口大学とカセサート大学間のジョイント・ディグリープログラム開設に関する協定の再調印式が行われました。ジョイント・ディグリープログラムとは、我が国の大学と外国の大学とが共同して実施する教育プログラムで、連携する大学間で開設された共同プログラムを修了した際に共同で単一の学位を授与するものです。本学は2016年11月にカセサート大学と、ジョイント・ディグリープログラム設置に向けた協力に関する大学間協定を締結しました。本学大学院創成科学研究科農学系専攻とカセサート大学大学院熱帯農学専攻及び生命科学関連専攻による国際連携専攻設置に向けて検討を重ね、この度の協定締結となりました。調印式の前の懇談会では、このジョイント・ディグリープログラムを設置することにより、相互の学生交流を更に発展させると同時に、教員同士の共同研究も盛んに進めて行くことで合意されました。

引き続き、岡正朗学長とチョンラク・ワチャリンラット学長が協定書に署名し、記念撮影ののち、記念品の交換を行いました。ジョイント・ディグリープログラムは、本学大学院創成科学研究科に修士課程として設置を計画しており、2020年4月の開設を目指しています。カセサート大学と本学とは、1998年7月に大学間学術交流協定を締結し、2016年11月にはカセサート大学のキャンパス内に山口大学バンコク国際連携オフィスを開設するなど、研究者や学生の活発な交流を行ってきました。ジョイント・ディグリープログラムによる国際連携専攻設置により、更なる交流の深化が期待されます。

（※）国際連携専攻設置については現在構想中であり、今後変更の可能性があります。



○ 研究拠点形成事業においてファイナルジョイントセミナーを開催しました

12月2日（日）～4日（火），山口大学吉田キャンパスの大学会館において，研究拠点形成事業（Core-to-Core Program）“Establishment of an international research core for new bio-research fields with microbes from tropical areas (World-class research hub of tropical microbial resources and their utilization)” のファイナルジョイントセミナーを開催しました。

「研究拠点形成事業」は，平成10年度から10年間実施した「拠点大学方式学術交流事業」，平成20年度から5年間実施した「アジア研究教育拠点事業」に続く日本学術振興会（JSPS）の事業で，本学大学院創成科学研究科農学系学域生物機能科学分野の山田 守教授が日本側コーディネーターを務める国際共同研究プロジェクトです。

本事業は，日本・タイ・ドイツ・ベトナム・インドネシア・ラオス・英国から74大学・研究機関，総勢300名を超える研究者で組織され，約60課題の共同研究をそれぞれ小グループによって5年間実施し，活発な研究交流を続けてきました。今回のセミナーは，この国際共同研究プロジェクトの総括となるもので，5年間の共同研究成果と，今後の発展への課題を共有することを目的として開催されました。

開会式では，本学の岡正朗学長が開会の辞を，続いてタイ側拠点大学であるカセサート大学の Acting President である Dr. Chongrak Wachrinrat と National Research Council of Thailand (NRCT) の Secretary General である MD. Sirirurg Songsivilai から祝辞が述べられ，最後に JSPS 研究協力第一課長による開会宣言（代読）で開会しました。

Barry L. Wanner 博士（ハーバード大学・アメリカ）による基調講演 “Synthetic Biology Approach towards Creation of an Organism with a new Genetic Code” でスタートしたセミナーは，2題の特別講演と54題の口頭発表，88題のポスターセッションを140名近い参加研究者が3日間にわたって視聴・討議し，盛会のうちに閉会しました。



○ スペインのハイメ1世大学から留学生アドバイザーが来学しました

2018年12月10日（月）、大学間協定校であるスペインのハイメ1世大学（University Jaume I）から留学生アドバイザーである Ms. Mara Melissa Marcelli S. が来学しました。ハイメ1世大学は、スペインのカステジョン市に位置する公立の総合大学で、セラミック技術の研究に関しては、スペイン国内外で定評があります。本学は同大学と2017年10月に大学間協定を締結し、とくに分離膜の分野で、本学の大学院創成科学研究科工学系学域循環環境工学分野の熊切泉准教授を中心に共同研究を行っています。

当日は、始めに吉田キャンパスにおいて、職員との海外留学派遣・受入に関する意見交換や日本語授業の視察、本学学部学生に向けた大学紹介プレゼンテーションを行いました。大学紹介では約30名の学生が熱心にハイメ1世大学のプレゼンテーションを聞き、終了後も派遣留学希望学生から、ハイメ1世大学での留学生活について多くの質問が寄せられました。



午後には常盤キャンパスにおいて、熊切准教授の研究室を訪問し、研究室の学生に大学紹介を行いました。学生からは、ハイメ1世大学の男女比や工学分野での研究領域、卒業後の進路などに関する質問があり、また来年スペインの本学協定校に留学する学生からは、ぜひスペイン滞在中にハイメ1世大学を訪れたいとの発言があるなど、和やかな雰囲気での交流が行われました。

今回の訪問をきっかけに、本学とハイメ1世大学との交流が、研究交流に留まらず、学生交流にも拡大して実施されることが期待されます。山口大学は今後も海外協定校との交流を充実させ、大学のグローバル化を推進してまいります。

○ 中国駐日大使が本学を訪問し、学長と懇談しました

12月12日（水）、程永華中華人民共和国駐日本国特命全権大使、何振良中華人民共和国駐福岡総領事が本学を訪問し、岡正朗学長と懇談しました。また懇談終了後には、大使・総領事と本学で学ぶ中国人留学生の懇談の場が持たれました。

本学には200名近い中国からの留学生が学んでおり、大学間協定校や部局間協定は23大学・機関にも上り、活発な交流を行っています。最も交流に歴史がある山東大学とは、両大学の友好交流40周年を記念したシンポジウムを2019年3月に中国において開催予定です。

この度の大使訪問により、両国の学術や教育の交流がより活発に発展していくことが期待されます。



○ 赤坂清隆 元国際連合事務次長による講演会を開催しました

2018年12月20日（木）、公益財団法人フォーリン・プレスセンター理事長の赤坂清隆氏を講師に招き、吉田キャンパスのメディア講義室にて、講演会を開催しました。本講演会は、山口県及び公益財団法人山口県国際交流協会後援のもと、国際連合等、国際機関に造詣の深い講師によりグローバルに活躍することの面白さを伝え、山口県及び大学の国際化に貢献することを目的に開催したものです。

講演会の冒頭、富本幾文国際連携担当副学長補佐より開会挨拶があり、続いて、赤坂氏より「グローバルに活躍することの面白さ」と題した講演が行われました。

講演で赤坂氏は、情報通信や交通手段の発達によって、ヒト、モノ、サービス、資金の国境を越えた流れが急加速化し、地球が狭くなっているため、貧困問題、難民問題及び経済格差問題等のグローバルな問題が増加していることなどの国際情勢について説明されるとともに、外務省、在外日本国大使館、世界保健機関（WHO）、経済協力開発機構（OECD）及び国



際連合等の国際機関での勤務を通して得たご自身の経験を交えながら、グローバルに活躍することの面白さを伝えられました。そして、グローバルに活躍する人材になるために、英語力及びコミュニケーション能力を向上させ、人前で自分の意見を主張できるよう、自分自身に自信を持ってくださいと参加者の学生に呼びかけられました。



講演後の質疑応答では、会場を埋め尽くした約 100 名の本学の日本人学生、外国人留学生及び一般参加者から、「海外に関心の無い若者が多いことが、日本の将来にどう影響するのか」、「グローバル人材を育てるにはどうしたらよいか」等、終了時間を超えて多くの質問があがり、講演会は、大盛況のうちに幕を閉じました。

本講演会をきっかけに、学生をはじめ、より多くの方が海外へ興味を持ち、世界に活躍の場を広げていくことが期待されます。

○ 山口大学ハノイ国際連携オフィス開所式、ベトナム同窓会を開催しました



3月15日（金）、本学の大学間協定校であるベトナム国立農業大学（VNUA）（ベトナム・ハノイ）内に、本学6番目の海外オフィスを開所しました。本学からは、三浦房紀国際連携担当副学長や佐藤晃一共同獣医学部長はじめ13名の教職員が同大学を訪問し、開所式に出席しました。

VNUAからは、Nguyen Thi Lan 学長や Pham Van Cuong 副学長、現在 VNUA で教職を務める本学の卒業生らが出席したほか、在ベトナム日本国大使館から中馬愛二等書記官や、本学のベトナム協定校/機関から学長はじめ代表者ら多数の出席がありました。

オフィス開所式では、はじめに Nguyen Thi Lan 学長から本学と VNUA との交流経緯や今後の交流がより盛んになることを期待する旨の歓迎の挨拶があり、その後三浦副学長から今後のベトナムとの交流推進への期待や VNUA への謝辞が述べられた後、覚書への調印やテープカット、銘板除幕が行われました。



同日午後には本学ベトナム協定校・機関から4大学・1機関の代表者が集い、連携ミーティングを行いました。各代表者からは、それぞれの機関の概要や重点研究分野の紹介が行われた後に、学生・研究者交流の強化や共同研究の実施等に関する本

学への期待と要望が述べられ、今後の連携強化に向けた具体的な意見交換が行われました。



3月16日(土)には、山口大学ベトナム同窓会親睦会が、元留学生の提案によりベトナム現地で初めて開催されました。当日は約40名の出席があり、本学からは三浦副学長はじめ教職員が多数出席し、元留学生・研究者との再会を果たしました。会の冒頭では、岡学長からのビデオメッセージが上映され、

本学の最新情報が披露されたほか、同窓生のこれからの活躍に期待する旨のメッセージが送られました。また、駐日ベトナム社会主義共和国大使館ヴァー・ホン・ナム大使からの祝辞も披露されました。

会の最後には、ス・タン・ロン同窓会長(VNUA 教員)を筆頭に参加者から、将来本学で学ぶ未来の留学生の支援のために多くの寄付金が寄せられ、遠くない将来、この親睦会が再び開催されることを参加者同士が確認し閉会となりました。

本学はハノイ国際連携オフィスを起点に、本学の最新情報をベトナム国内に発信し、ベトナムの学術機関との連携強化に努めてまいります。また、これからも元留学生・研究者とのつながりを大切にし、海外との国際連携活動を推進してまいります。



○ 山東大学・山口大学友好交流 40 周年記念式典に岡正朗学長らが出席しました

3月25日（月）、中華人民共和国の山東大学済南キャンパスにおいて開催された「山東大学・山口大学友好交流 40 周年記念式典」に岡正朗学長、富本幾文国際連携担当副学長補佐ら本学教職員 17 名が出席しました。

山東大学と本学は、1979年に交流を開始し（1983年に国際交流協定を締結）、今年で交流 40 周年を迎えます。このことを記念して行われた式典では、まず、山東大学・樊麗明（Fan Liming）学長及び本学・岡学長の両学長から挨拶がありました。樊学長から、歓迎の意が表された後、「これまでの 40 年間、社会情勢に関わらず、両大学は共に手を取り、途絶えることなく交流を続け、多くの成果を上げてきており、これからも様々な分野で交流を続けていきたい」と挨拶がありました。



岡学長は、「山口大学が開学後、最初に国際交流協定を締結した海外の大学が山東大学であり、中国において歴史と実績を誇る大学と交流できることを大変喜ばしく思うと同時に、今後、より一層交流の質を高め、実りあるものにしていきたい」と述べました。

その後、来賓祝辞や両大学から記念品の贈呈が行われる等、式典は終始和やかに行われ、両大学の交流の深さを感じられるものでした。

式典に続き行われた医療シンポジウムでは、山東大学の陳子江（Chen Zijiang）医学部長（兼副学長）及び本学の谷澤幸生医学部長をはじめとする多くの医学分野の研究者が出席し、活発な議論が行われる等、医学分野での今後の交流推進が期待できるものでした。また、式典前日には、「山口大学海外同窓会中国山東支部」親睦会、3月22日（金）には山東大学・青島キャンパスにて、東アジア研究科長の葛崎偉教授を中心とする重点連携大学事業グループのシンポジウムが開催される等、式典とともに両大学の様々な交流が行われ、山東大学と山口大学の2つの「山大」の絆がより一層強いものとなりました。

友好交流 40 周年という節目を機に、過去の交流を振り返るとともに、将来を展望し、これからも末永く続く両大学の友好関係を基に、教育及び研究における多くの成果が期待されます。



○ サラゴサ大学及び新リスボン大学と第5回国際共同シンポジウムを開催しました

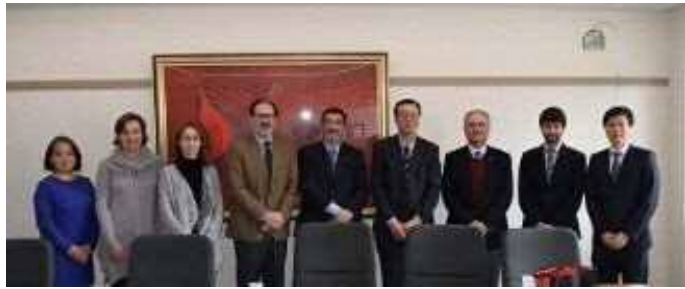
第5回山口大学・サラゴサ大学（スペイン）・新リスボン大学（ポルトガル）国際共同シンポジウムが3月25日（月）・26日（火）の2日間、本学工学部において開催されました。

本シンポジウムは、平成25年度以降3大学持ち回りで開催しているものです。工学部とサラゴサ大学、新リスボン大学とは国際交流協定に基づく学生の派遣やEUのERASMUS+プログラムに基づく教職員・学生の相互交流を実施しており、日頃から活発な国際交流を行っています。

シンポジウムは三浦房紀副学長(国際連携担当)、堤宏守工学部長による開会挨拶により開幕し、「社会基盤構造物の維持管理」、「水・環境・エネルギー問題の解決を目指した新材料やプロセスの開発」、「情報処理技術の進展」を主なテーマとして最先端の研究内容について発表が行われました。

さらに、滞在期間中に新リスボン大学、サラゴサ大学、カンタブリア大学、シラパコーン大学の4大学による学部長表敬訪問もおこなわれ、各大学との交流を深める機会となりました。

次回シンポジウムは2020年9月にカンタブリア大学での開催が予定されています。



3. 国際交流協定

(1) 2018年度の国際交流協定の締結等

2018年度は国際交流協定を9大学・機関(大学等間5大学・機関, 学部間4大学)と締結し、12の大学(大学8大学, 学部間4大学)と更新した。

その結果、2018年3月末現在で、山口大学は大学等間では24カ国・地域の104大学・機関と国際交流協定を締結し、学部等間では9学部, 3研究科が26カ国・地域の58大学・機関と国際交流協定を締結している。

(2) 大学等間国際交流協定

国・地域名	機関名 (英語表記)	締結年月日	学生交流覚書
インドネシア	ブラウイジャヤ大学 (Brawijaya University)	2008.04.15	有
	ガジヤマダ大学 (Gadjah Mada University)	2008.10.14	
	ボゴール農科大学 (Bogor Agricultural University)	2010.03.10	
	ウダヤナ大学 (Udayana University)	2010.03.25	
	バンドン工科大学 (Bandung Institute of Technology)	2012.05.25	有
	インドネシア大学 (University of Indonesia)	2015.12.16	有
	地理空間情報庁 (Geospatial Information Agency)	2016.07.20	
	財務省財政均衡総局 (Directorate General of Fiscal Balance, Ministry of Finance)	2016.01.21	
	シャリフ・ヒダヤトゥラー イスラム宗教国立大学 (Syarif Hidayatullah State Islamic University Jakarta)	2018.10.18	
韓国	仁荷大学校 (Inha University)	1998.06.25	有
	公州大学校 (Kongju National University)	1999.03.15	有
	韓国外国語大学校 (Hankuk University of Foreign Studies)	2003.12.02	有
	慶尚大学校 (Gyeongsang National University)	2004.11.26	有
	ソウル市立大学校 (University of Seoul)	2009.12.21	有
	昌原大学校 (Changwon National University)	2010.02.10	有
	ソウル大学校 (Seoul National University)	2010.02.11	有
	亜州大学校 (Ajou University)	2010.03.08	有
	梨花女子大学校 (Ewha Womans University)	2010.03.08	有
	群山大学校 (Kunsan National University)	2010.04.26	有
	釜山外国語大学校 (Busan University of Foreign Studies)	2014.12.04	有
	全北大学校 (Chonbuk National University)	2015.09.16	有
	忠北大学校 (Chungbuk National University)	2016.12.23	有
	タイ	カセサート大学 (Kasetsart University)	1998.07.03
ソンクラ王子大学 (Prince of Songkla University)		2001.10.29	有
コンケン大学 (Khon Kaen University)		2001.10.30	有
チェンマイ大学 (Chiang Mai University)		2001.10.31	有
シーナカリンウィロート大学 (Srinakharinwirot University)		2001.11.01	有

国・地域名	機関名（英語表記）	締結年月日	学生交流覚書
タイ	タイ国農学研究機構 (Agricultural Research Development Agency)	2008.08.27	
	チュラロンコン大学 (Chulalongkorn University)	2010.09.14	
	キングモンクット工科大学ラカバン校 (King Mongkut's Institute of Technology Ladkrabang)	2018.08.10	
中国	山東大学 (Shandong University)	1983.06.02	有
	北京師範大学 (Beijing Normal University)	2004.02.09	有
	武漢理工大学 (Wuhan University of Technology)	2004.05.20	有
	貴州大学 (Guizhou University)	2005.03.25	有
	重慶理工大学 (Chongqing University of Technology)	2010.11.19	有 (工学部)
	首都師範大学 (Capital Normal University)	2011.10.17	有
	江蘇大学 (Jiangsu University)	2013.09.03	有
	大連外国語大学 (Dalian University of Foreign Languages)	2013.12.30	有
	西安交通大学 (Xi'an Jiaotong University)	2015.04.28	有
	香港樹仁大学 (Hong Kong Shue Yan University)	2015.07.20	有
	香港教育大学 (The Education University of Hong Kong)	2015.09.02	有
	遼寧師範大学 (Liaoning Normal University)	2016.03.15	有
	浙江理工大学 (Zhejiang Sci-Tech University)	2017.01.03	有
	湖州師範大学 (Huzhou University)	2017.02.28	有
台湾	国立中興大学 (National Chung Hsing University)	2006.03.09	有
	東海大学 (Tunghai University)	2009.09.30	有
	逢甲大学 (Feng Chia University)	2009.09.30	有
	大葉大学 (Dayeh University)	2009.09.30	有
	静宜大学 (Providence University)	2009.09.30	有
	開南大学 (Kainan University)	2012.10.15	有
	国立高雄師範大学 (National Kaohsiung Normal University)	2014.11.18	有
	淡江大学 (Tamkang University)	2016.12.29	有
ベトナム	カンター大学 (Can Tho University)	2011.11.16	有
	ベトナム国立農業大学 (Vietnam National University of Agriculture)	2012.03.29	有
	ベトナム国家大学ホーチミン市校 国際大学 (International University - Vietnam National University in Ho Chi Minh City)	2015.07.21	有

国・地域名	機関名（英語表記）	締結年月日	学生交流覚書
ベトナム	国立ハノイ教育大学 (Hanoi National University of Education)	2015.07.22	有
	東部国際大学 (Eastern International University)	2015.12.07	有
	ダナン科学技術大学 (University of Science and Technology, The University of Danang)	2017.07.05	有
マレーシア	サラワク大学 (University Malaysia Sarawak)	2012.03.29	有
	マレーシア工科大学 (University of Technology, Malaysia)	2012.09.05	有
	クアラルンプール大学 (University of Kuala Lumpur)	2016.07.13	有
	マラ工科大学 (University of Technology MARA)	2017.07.05	有
ラオス	ラオス国立大学 (National University of Laos)	2012.04.12	有
ミャンマー	イエジン農業大学 (Yezin Agricultural University)	2015.01.12	
イギリス	シェフィールド大学 (University of Sheffield)	1997.11.28	有
	ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン (University College London)	2007.11.19	
	セントラル・ランカシャー大学 (University of Central Lancashire)	2012.11.05	(協定書内に学生交流に関する記載有)
	エディンバラ大学 (The University of Edinburgh)	2018.11.12	
ドイツ	フリードリヒ・アレクサンダー大学 エアランゲン・ニュルンベルク (Friedrich-Alexander University Erlangen-Nuremberg)	2003.03.17	有
	ホフ大学 (Hof University of Applied Sciences)	2015.03.16	有
	ベルリン・ボイト工科大学 (Beuth University of Applied Sciences Berlin)	2015.08.17	有
フランス	リール第3大学 (Lille 3 University)	2015.10.16	有
	リール・カトリック大学 (Lille Catholic University)	2016.01.20	有
スペイン	サラゴサ大学 (University of Zaragoza)	2014.11.27	有 (工・共同獣医)
	バルセロナ自治大学 (Autonomous University of Barcelona)	2015.09.14	
	ハイメ I 世大学 (Jaume I University)	2017.10.26	有
ハンガリー	エトヴェシュ・ロラード大学 (Eotvos Lorand University)	2015.05.25	(協定書内に学生交流に関する記載有)
	カーロリ大学 (Károli Gáspár University of the Reformed Church in Hungary)	2015.08.18	有 (国際総合科学部)
ロシア	モスクワ大学 (M.V. Lomonosov Moscow State University)	2015.03.05	
	モスクワ工業大学 (Moscow Technological University)	2015.11.26	
	ロシア国立農業大学 モスクワ・ティミリャーゼフ農業アカデミー (Russian State Agrarian University · Moscow Timiryazev Agricultural Academy)	2017.09.07	

国・地域名	機関名（英語表記）	締結年月日	学生交流覚書
リトアニア	ヴィータウタス・マグヌス大学 (Vytautas Magnus University)	2015.09.03	有
デンマーク	サザンデンマーク大学 (University of Southern Denmark)	2016.05.26	有
アメリカ 合衆国	オクラホマ大学 (University of Oklahoma)	1996.02.19	有
	ハワイ大学ヒロ校 (University of Hawai'i at Hilo)	2015.02.25	
	中央フロリダ大学 (University of Central Florida)	2015.04.16	
	カリフォルニア州立大学ポリテクニク大学ポモナ校 (California State Polytechnic University, Pomona)	2015.03.20	
	フィッチバーグ州立大学 (Fitchburg State University)	2015.12.21	有
	マンハッタンビル大学 (Manhattanville College)	2016.07.19	有
	イーストウエストセンター (East-West Center)	2018.05.16	
	ハワイ大学カウアイコミュニティカレッジ (University of Hawai'i Kaua'i Community College)	2018.08.07	有
カナダ	リジャイナ大学 (University of Regina)	1996.02.07	有
チリ	バルパライソ大学 (University of Valparaiso)	2015.07.02	有
	コンセプション大学 (University of Concepcion)	2016.01.13	有
ブラジル	サンパウロ大学 (University of São Paulo)	2018.02.19	
	サンパウロ・ポンティフィシア・カトリック大学 (Pontifical Catholic University of São Paulo)	2018.02.27	
ペルー	ペルー国立工科大学 (National University of Engineering)	2016.09.20	
	ラ・モリーナ国立農業大学 (La Molina National Agrarian University)	2017.06.06	有
	国立サンマルコス大学 (National University of San Marcos)	2017.08.28	有
	サン・イグナシオ・デ・ロヨラ大学 (Saint Ignatius of Loyola University)	2017.08.29	有
	ペルー国家防災庁 (National Institute of Civil Defense (INDECI))	2017.08.29	
オースト ラリア	ニューカッスル大学 (University of Newcastle)	2003.08.08	有
	シドニー工科大学 (University of Technology, Sydney)	2012.05.30	有
ニュージー ランド	リンカーン大学 (Lincoln University)	2015.11.11	有

(3) 部局等間国際交流協定

国・地域名	締結部局	機関名 (英語表記)	締結 年月日	学生 交流 覚書
インド ネシア	工学部	マランイスラム大学 医学部 (Faculty of Medicine, Islamic University of Malang)	2014.06.27	
		マランイスラム大学 農学部 (Faculty of Agriculture, Islamic University of Malang)	2014.06.27	
		マランイスラム大学 工学部 (Faculty of Engineering, Islamic University of Malang)	2015.07.31	
		リアウ大学 工学部 (Faculty of Engineering, Riau University)	2014.12.24	有
	共同獣医学 部	アイルランガ大学 獣医学部 (Faculty of Veterinary Medicine, Airlangga University)	2018.07.04	有
	理工学 研究科	国家防災庁 データ・情報・広報センター (Center of Data, Information and Public Relations, National Disaster Management Agency)	2016.01.21	
韓国	教育学部	釜山大学校 教育学部 (College of Education, Pusan National University)	2010.06.21	
	理学部	韓国天文研究院 電波天文研究部 (Radio Astronomy Division, Korea Astronomy and Space Science Institute)	2010.03.15	
	工学部	又松大学校 鉄道物流学部 (College of Railroad and Transportation, Woosong University)	2010.02.01	
タイ	医学部	マヒドン大学 看護学部 (Faculty of Nursing, Mahidol University)	2001.03.26	
	農学部	キングモンクット工科大学 トンブリ校 生物資源工学研究科 (School of Bioresources and Technology, King Mongkut's University of Technology Thonburi)	2006.05.23	有
		タクシン大学 技術・地域開発学部 Faculty of Technology and Community Development, Thaksin University)	2012.01.16	
		メージョー大学 農学生産学部 (Faculty of Agricultural Production, Maejo University)	2012.02.23	有
		ラジャマンガラ工科大学 農業産業技術学部 (Faculty of Agro-Industrial Technology, Rajamangala University of Technology Tawan-ok)	2013.07.11	有
		メーフールアン大学 理学部 (School of Science, Mae Fah Luang University)	2016.01.04	
中国	教育学部	復旦大学 情報科学工程学院 (School of Information Science and Engineering, Fudan University)	2005.09.23	有
	経済学部	中国人民大学 経済学院 (School of Economics, Renmin University of China)	2001.06.03	有
	医学部	大連医科大学 (Dalian Medical University)	2006.12.14	
	工学部	上海交通大学 環境科学与工程学院 (School of Environmental Science and Engineering, Shanghai Jiao Tong University)	2004.02.11	
		西華大学 (Xihua University)	2007.02.05	有
	農学部	東北師範大学 環境学院 (School of Environment, Northeast Normal University)	2010.04.15	
	国際総合 科学部	山東農業大学 外国語学院 (College of Foreign Languages, Shandong Agricultural University)	2016.03.15	有
	東アジア 研究科	復旦大学 日本研究センター (Center for Japanese Studies, Fudan University)	2001.10.29	
台湾	経済学部	国立高雄餐旅大学 (National Kaohsiung University of Hospitality and Tourism)	2012.03.09	有
	医学部	国立台湾大学 医学院 (College of Medicine, National Taiwan University)	2009.04.01	

国・地域名	締結部局	機関名 (英語表記)	締結 年月日	学生 交流 覚書
台湾	理学部	国立台湾大学 理学院 (College of Science, National Taiwan University)	2017.5.22	
		台湾師範大学 理学院 (College of Science, National Taiwan Normal University)	2016.12.30	
	教育学部	淡江大学 文学院 (College of Liberal Arts, Tamkang University)	2013.07.23	有
	人文学部	東呉大学 人文社会学部 (School of Liberal Arts and Social Sciences, Soochow University)	2014.09.19	
マレーシア	工学部	ペトロナス工科大学 (Petronas Technological University)	2018.10.11	有
モンゴル	共同獣医学部	モンゴル国立生命科学大学獣医学研究所 (Institute of Veterinary Medicine, Mongolian University of Life Sciences)	2015.11.13	
ネパール	連合獣医学研究科	農業林業大学 畜産獣医水産学部 (Faculty of Animal Science, Veterinary Science and Fisheries, Agriculture and Forestry University)	2015.03.05	
バングラデシュ	理学部	バングラデシュ核エネルギー食物・放射線生物学研究所 (Institute of Food and Radiation Biology, Atomic Energy Research Establishment)	2000.05.04	
	農学部	ジャハンギナガル大学 生物科学部 (Faculty of Biological Science, Jahangirnagar University)	2012.03.06	有
ベトナム	共同獣医学部	ベトナム農業農村開発省畜産研究所 (National Institute of Animal Science, Ministry of Agriculture and Rural Development)	2012.07.24	
	理学部	フエ大学 理学部 (Hue University of Sciences, Hue University)	2017.04.18	有
スリランカ	農学部	スリランカ農業局及びペラデニア大学農学研究科 (Department of Agriculture, Sri Lanka & Postgraduate Institute of Agriculture, University of Peradeniya)	2016.03.03	
インド	経済学部	カルカッタ大学 経済学部 (Department of Economics, University of Calcutta)	2019.02.08	
		カルカッタ大学 商学・福祉・経営学群 (Faculty of Commerce, Social Welfare and Business Management, University of Calcutta)	2019.02.08	
	工学部	クルクシェトラ工科大学 (National Institute of Technology, Kurukshetra)	2017.01.11	
トルコ	工学部	ダンルピナー大学 工学部 (Faculty of Engineering, Dumlupinar University)	2015.05.20	
		シェヒル大学 工学・自然科学部 (College of Engineering and Natural Sciences, Istanbul Sehir University)	2017.04.19	有
ウクライナ	教育学部	イヴァン・フランコ記念リヴィウ国立大学 (Ivan Franko National University of L'viv)	2004.11.16	有
イギリス	工学部	ブリストル大学 工学部 (Faculty of Engineering, University of Bristol)	2010.03.01	
ロシア	医学部	カザン医科大学 (Kazan State Medical University)	2012.12.17	
ポルトガル	工学部	新リスボン大学 理工学部 (Faculty of Science and Technology, New University of Lisbon)	2013.08.08	有
フランス	工学部	ボルドー大学 (University of Bordeaux)	2014.03.11	有
スペイン	工学部	カンタブリア大学 産業工学通信学部 (School of Industrial Engineering and Telecommunications, University of Cantabria)	2015.02.25	有
スイス	国際総合科学部	ベルン応用科学大学 経営管理学部 (School of Business, Bern University of Applied Sciences)	2015.09.03	有
オランダ	農学部	ワーゲニンゲン大学 オランダ大遺伝資源センター (Centre for Genetic Resources, the Netherlands (CGN))	2017.04.01	

国・地域名	締結部局	機関名 (英語表記)	締結 年月日	学生 交流 覚書
ケニア	共同獣医学部	ナイロビ大学 獣医学部 (Faculty of Veterinary Medicine, University of Nairobi)	2017.06.30	
アメリカ合衆国	国際総合科学部	エルジンコミュニティカレッジ (Elgin Community College)	2015.07.28	(協定書内に学生交流に関する記載有)
	医学部	シティ オブ ホープ (City of Hope)	2017.08.01	
	医学系研究科	カンザス大学 メディカルセンター	2017.08.11	
アルゼンチン	農学部	ラプラタ大学 理学部 (Faculty of Science, National University of La Plata)	2011.04.27	
		公立ミシオネス大学 精密自然科学部 (Faculty of Exact, Chemical and Natural Sciences, National University of Misiones)	2018.10.16	
オーストラリア	連合獣医学研究科	西オーストラリア大学 農学研究科 (The UWA Institute of Agriculture, University of Western Australia)	2015.10.22	
ニュージーランド	農学部	ニュージーランド作物・食物研究所 (New Zealand Institute for Plant & Food Research Limited)	2008.09.03	

4. 海外拠点

本学では海外協定校の協力のもと、外国の教育研究機関との相互交流の推進及び本学の情報発信等を目的とし、6カ国・地域の計6ヶ所に国際連携オフィスを設置している。その内インドネシア、台湾、マレーシア、タイの4つの拠点事務所に現地スタッフを配置し、現地の優秀な学生獲得に向けた広報活動、本学派遣学生の留学支援や同窓会活動の支援等行っている。

2018年10月にはオフィススタッフを本学に招へいし、本学の国際化の取組や現状等、オフィスでの活動を実施する上で必要な知識を身に付けてもらうことを目的として、国際連携オフィススタッフ学内研修を実施した。研修では、吉田・常盤・小串の3キャンパスツアー、スタッフ間でのそれぞれの活動紹介、日本語授業の視察及び本学学生に向けてオフィス紹介プレゼンテーション等を実施した。

2019年3月には、大学間協定校であるベトナム国立農業大学内に、同大学に勤務する多数の本学卒業生の協力のもと、新たにハノイ国際連携オフィスを設置した。ハノイオフィス開所式にあわせて、山口大学ベトナム同窓会親睦会をベトナム現地で初めて開催し、本学卒業生及びベトナム帰国研究者、本学教職員の約40名が出席した。

- ① 「山口大学 山東国際連携オフィス」
住所：中国 250100 山東省済南山大南路 27 号 山東大学内
- ② 「山口大学 バリ国際連携オフィス」
住所：Udayana University
Jl.P.B Sudirman Campus Gedung FISIP 2F Denpasar Bali Indonesia
- ③ 「山口大学 台湾国際連携オフィス」
住所：台湾 51591 彰化県大村郷学府路 168 号 大葉大学内
- ④ 「山口大学 クアラルンプール国際連携オフィス」
住所：Malaysia-Japan International Institute of Technology (MJIIT)
Universiti Teknologi Malaysia Kuala Lumpur Campus
Jalan Sultan Yahya Petra, 54100, Kuala Lumpur Malaysia
- ⑤ 「山口大学 バンコク国際連携オフィス」
住所：Kasetsart University
50 Ngam Wong Wan Rd, Ladyao Chatuchak Bangkok, 10900, Thailand
- ⑥ 「山口大学 ハノイ国際連携オフィス」
住所：Vietnam National University of Agriculture
Trau Quy-Gia Lam-Ha Noi-Viet Nam



国際連携オフィススタッフ学内研修
(2018年10月 山口大学)



ハノイ国際連携オフィス開所式
(2019年3月 ハノイオフィス)

5. 本部への海外からの来訪者

日時	訪問者	国
2018/6/11	<u>農学研究機構 (ARDA)</u> Director Panpimon Chunyanuwat ほか 4 名	タイ
2018/7/9	<u>マレーシア工科大学</u> 精密機械工学科 2 年生 39 名	マレーシア
2018/7/10	<u>ガジャマダ大学</u> Siti Isrina Oktavia Salasia 獣医学部長 ほか 3 名	インドネシア

日時	訪問者	国
2018/7/19	<u>ハワイ大学カウアイコミュニティカレッジ</u> 池田恭子 国際教育コーディネーター	アメリカ合衆国
2018/7/24	<u>エディンバラ大学</u> 鳴海富美子 文学・言語・文化学部日本語学科フェロー	イギリス
2018/7/30	<u>農業林業大学</u> Sharada Thapaliya 畜産学部長	ネパール
2018/11/9	<u>群山大学</u> Yang HyunHo 教授 ほか3名	韓国
2018/11/19	<u>ダバオオリエンタル州立大学</u> Edito B. Sumile 学長 ほか2名	フィリピン
2018/11/30	<u>農業農村開発省畜産研究所</u> Dr. Nguyen Khanh Van, Vice Director of Key Laboratory of Animal Cell Biotechnology ほか2名	ベトナム
2018/12/3	<u>カセサート大学</u> Chongrak Wachrinrat 学長 ほか6名	タイ
2018/12/6	<u>ハワイ大学カピオラニコミュニティカレッジ</u> Vince M Okada-Coelho ホンダインターナショナルセンター プログラムコーディネーター Damian Zukeran 教育スペシャリスト	アメリカ合衆国
2018/12/9	<u>ハイメ I 世大学</u> Mara Melissa Marcelli S. 留学生アドバイザー	スペイン
2018.12.11	<u>ウダヤナ大学</u> I Nyoman Gede Antara 教育担当副学長 学部学生 11名 ほか4名	インドネシア
2018/12/12	<u>中華人民共和国駐日本国大使館及び中華人民共和国駐福岡総領事館</u> 程永華 中華人民共和国駐日本国特命全権大使 何振良 中華人民共和国駐福岡総領事館総領事 ほか秘書官2名	

6. 本学学長の海外訪問

訪問日程	訪問先・内容（訪問者）	国・地域名
2018年6月	<ul style="list-style-type: none"> ・ケンブリッジ大学訪問 ・在英国日本国大使館表敬訪問 ・ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン訪問 ・3大学学長懇談会（ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン，鹿児島大学，山口大学）出席 ・維新150周年記念国際シンポジウム出席 ・ジャパンハウス視察 ・ブルックウッド墓地視察 	イギリス
2019年3月	<ul style="list-style-type: none"> ・山東大学・山口大学友好交流40周年記念式典出席 ・山口大学海外同窓会中国山東支部親睦会出席 	中国

7. 海外協定校との連携プロジェクトの推進

(1) 英国協定校との連携

上述のとおり、6月22日に在英国日本国大使館において、「維新150周年記念国際シンポジウム」を開催したが、化学部門、眼科部門、防災部門においては、シンポジウムに先立ちUCLとの個別の学術分科会を実施し、今後の共同研究発展に向けた連携強化を行った。

このシンポジウム実施を契機に、UCL以外の英国の大学との連携強化のための協議を重ね、エディンバラ大学と学生交流・リモートセンシング技術の応用研究・獣医学の分野での連携を確認し、11月に大学間国際交流協定を締結した。さらにバース大学とも国際共著論文に関する協力を念頭に国際交流協定や学生研究滞在に関するMOAの締結に向けて協議を続けている。（2019年8月に締結に至っている。）

この他、シンポジウム開催や英国を中心とした欧州での活動から、本来は欧州に拠点を設けている大学が加盟し活動しているJANET（日欧州大学ネットワーク）への参加打診があり、11月にJANETに加盟した。

(2) 山東大学との連携

重点連携大学校のひとつである中国・山東大学とは、2019年が交流開始40周年にあたるため、2019年3月に山東大学にて、記念式典並びに医療及び東アジア研究の2分野での研究シンポジウムを開催し、双方に立地する自治体の支援のもと、これまでの両大学の交流の歴史を振り返ると共に、今後両大学が連携する研究内容について研究者による発表と協議を行った。

(3) インドネシアの獣医系大学との連携

共同獣医学部がインドネシアの獣医系大学との AJIVE (Association of Japan - Indonesia Veterinary Education : 日本-インドネシア獣医学教育研究連携会議) シンポジウムを 11 月に開催した。その際インドネシア側の大学・政府機関参加者と、インドネシアの学生が、インドネシア財務省及び高等教育省の海外学生派遣プログラムを利用して山口大学の大学院へ留学するための協議を行った。その後の協議により、インドネシアの高等教育省と国際交流協定を締結することについて合意した。

(4) JICA イノベティブ・アジアプログラム

「イノベティブ・アジア」は国際協力機構 (JICA) が実施する、日本とアジアの開発途上国双方におけるイノベーション環境の改善に、人材育成面で貢献することを目的として、優秀な学生等を日本に招へいし、長期・短期の研修を提供する事業である。同プログラムの対象大学に本学がリストアップされたことより、平成 30 年後期から海外協定校等から留学生 4 名の大学院受け入れが始まり、協定校等との連携により優秀な留学生の獲得を実現し、情報技術分野での高度外国人材の育成と協定校との連携強化を行うことが出来た。

(5) アメリカ合衆国ハワイ州の学術機関・山口県人会との連携

本学の特色ある国際交流を実施するため、海外にある「山口県人会」と連携した交流プログラムを開始した。特に日本からの移民開始 150 年の記念の年を迎えたハワイについては、カウアイ山口県人会が仲介役となりハワイ大学カウアイコミュニティカレッジとの国際交流協定を締結し、交換留学を含めた交流が可能となった。また、9 月には、同カレッジ学長立会いのもと、カウアイ山口県会とも連携に関する覚書を締結して、ハワイ移民に関する山口学研究を実施するにあたってのインタビュー協力や、学生ホームステイ受入などの協力を得た。

さらにハワイの他の県人会 (ハワイ島やオアフ島) とも協議を重ね、カウアイと同様の連携を実施する予定であるほか、移民が興した企業等への学生視察・就業体験などへの協力も得られることとなった。同時に、ハワイの他のコミュニティカレッジとも連携を確認し、カピオラニコミュニティカレッジとは学生交流への協力を基にした国際交流協定を締結することで合意した。(2019 年 5 月に締結に至っている。)

8. 研究者の交流

大学の主要な活動である研究においては、海外でのデータの収集、海外機関との研究交流による研究の加速化と精度の向上は不可欠であり、毎年多くの教員、研究者を海外に派遣し、また山口大学にも多くの海外の大学教員、研究者を受け入れている。また国際的な

ネットワークや連携を通じて、共同研究、シンポジウムの開催、授業の相互提供といった国際活動が行われている。

2018年度は延べ817名の教員を上記の目的で海外に派遣した。また2018年4月から新しく受入れを開始した外国人研究者は延べ88名であった。

※人数の把握は、「国立大学法人山口大学海外渡航事務取扱要領」及び「国立大学法人山口大学外国人研究者規則」による。

重点連携大学事業について

本学では、研究分野を主体とした国際連携活動を強化することにより大学の研究レベルの高度化を図ると共に、学術を通じた教育支援及び国際貢献を行うことを目的として、特に本学の研究力向上につながると期待できる海外の大学を重点連携大学として選定し、選定大学との国際連携活動に対して支援を行っている。

平成30年度に研究グループ全体で教職員及び学生約110名を重点連携大学等に派遣、約110名を本学に受入れ、相互派遣を通して共同研究及び人材交流を進めた。また、研究成果を発表するために国内外で国際シンポジウムを開催し、論文発表とあわせて研究成果を広く周知した。このような研究交流活動を通して、主目的の「国際共著論文数」は、本事業を開始して毎年増加の一途をたどっているが、昨年度実績の20件からさらに11件増加し、平成30年度は31件であった。

9. 職員の研修

(1) 山口大学海外派遣 SD（スタッフ・ディベロップメント）研修

毎年以下のとおり事務系職員を1週間程度海外に派遣し、海外の大学における管理方法、研究・教育支援体制を学ぶほか、職員の外国語能力の向上やグローバルマインドの醸成に努めている。本研修は、これまでは山口大学教育研究後援財団の支援の元実施していたが、2018年度は山口大学基金の支援を受け実施している。

2018年度は、山東大学・山口大学友好交流40周年記念式典の開催にあわせて、2名の職員を山東大学に派遣し、現地で研修を行った。

SD研修が開始された2004年からの派遣実績は次表のとおりである。

年度	派遣者数	派遣国	派遣大学
2004	2	アメリカ	オクラホマ大学
		イギリス	シェフィールド大学
2005	2	アメリカ	ハワイ大学
		イギリス	シェフィールド大学
2006	2	カナダ	リジャイナ大学
		ドイツ	フリードリヒ・アレクサンダー大学・エアランゲン・ニュルンベルク
2007	2	アメリカ	オクラホマ大学
		オーストラリア	ニューカッスル大学
2008	2	中国	山東大学・香港中文大学
2009	2	中国	山東大学
2010	4	中国	山東大学
		台湾	大葉大学ほか
		インドネシア	ウダヤナ大学
2011	3	中国	山東大学
		インドネシア	ガジャマダ大学
2012	4	中国	山東大学
		台湾	大葉大学
		インドネシア	ガジャマダ大学
2013	13	中国	山東大学
		台湾	大葉大学
		インドネシア	ウダヤナ大学
		ベトナム	ハノイ農業大学・カントー大学
2014	16	タイ	カセサート大学・ラジャマンガラ工科大学
		中国	山東大学
		台湾	大葉大学
		インドネシア	ウダヤナ大学・ガジャマダ大学
		オーストラリア	シドニー工科大学・ニューカッスル大学
		カナダ	リジャイナ大学
		タイ	チェンマイ大学・シーナカリンウィロート大学
マレーシア	マレーシア工科大学・マレーシア日本国際工科院		
2015	13	中国	山東大学
		台湾	大葉大学・東海大学・静宜大学
		タイ	チュロンコン大学・カセサート大学
		マレーシア	マレーシア工科大学・マレーシア日本国際工科院
		インドネシア	バンドン工科大学・ウダヤナ大学・国際交流基金ジャカルタ日本文化センター・インドネシア大学・ダルマプルサダ大学
		オーストラリア	ニューカッスル大学・シドニー工科大学
		イギリス	ブリストル大学・サリー大学・セントラルランカシャー大学・JSPSロンドン
ドイツ	フリードリヒ・アレクサンダー大学・エアランゲン・ニュルンベルク		
2016	9	中国	大連外国語大学・山東大学・APU上海オフィス
		台湾	大葉大学・国立中興大学・東海大学
		タイ	チェンマイ大学・カセサート大学・シーナカリンウィロート大学・チュロンコン大学
		インドネシア	インドネシア大学・ガジャマダ大学・ウダヤナ大学・APUジャカルタオフィス
2017	3	中国	山東大学
		タイ	チェンマイ大学・カセサート大学
2018	2	中国	山東大学

(2) 山口大学業務英語能力向上研修

外国人留学生及び研究者の生活，教育，研究の支援や，部局等の国際交流を担当できる事務職員の育成を目指し，2010年度から，外国人対応の業務に必要なコミュニケーション能力の習得及び英語能力向上を目指し職員研修を行っている。

前年度に引き続き2018年度も，第3期中期目標・中期計画に掲げた「TOEIC スコア800点相当以上の職員を5%以上とする」という数値目標達成をするため，TOEICスコアアップに特化した内容で，吉田キャンパス及び常盤キャンパスそれぞれに研修クラスを設置した。本研修終了後には，800点取得者の割合が5.48%となり上記の数値目標を達成することができた。

10. 学内の国際化推進体制の整備

全学で学内文書の英語化を進めており，平成29年度に引き続いて，平成30年度は下記のとおり26件の文書の英語化し，平成31年度運用開始のための準備を行った。

2018年度学内文書英語化文書一覧	
	文書名
1	レントゲン指示・結果のお知らせ文書
2	健康診断業務における対応一覧表
3	保険管理センター心理テスト
4	学内の感染症対策についての文書
5	保険管理センター健康ガイド(1ページ)
6	保険管理センター健康ガイド(4ページ)
7	保健管理センター健康ガイド(6ページ)
8	入院保証書
9	在院情報開示に関する届出書
10	患者さんの個人情報についての説明文書
11	入院時病衣届出
12	診療申込書
13	輸血説明書
14	臨床実習同意書
15	アレルギー歴の問診票
16	電気けいれん療法についての説明文書
17	監視モニターの同意書
18	相談員の紹介文書
19	経済1マークシート
20	メディア基盤センター登録証についての説明文書
21	メディア基盤センター許可証
22	常盤寮募集案内
23	入寮調書
24	誓約書(寮)
25	入寮選考結果通知
26	入寮願

11. 海外同窓会活動

本学のベトナム帰国留学生の提案のもと、平成 31 年 3 月にハノイ国際連携オフィスの開所にあわせて、ベトナム現地で初めてベトナム同窓会親睦会を開催した。また、平成 31 年 3 月に中国（山東）同窓会親睦会を岡学長出席のもと開催した。本学の教職員から最新の本学の教育研究活動の状況について情報提供を行うとともに、帰国研究者・留学生らと個別の意見交換を実施することで、新たな交流学生を山口大学へ呼び込むための海外広報の機会創出及び充実を図った。



ベトナム同窓会親睦会
(2019年3月16日)



中国（山東）同窓会親睦会
(2019年3月24日)

第 2 章 2018 年度の留学生部門の活動

第2章 2018年度の留学生部門の活動

2018年度の留学生総数は430名（2018年5月1日時点）であり、前年度より約30名増加した（図1）。地域別ではアジア圏からの留学生数が上位を占めており（図2）、その中でも中国からの留学が最も多い（図3）。

交換留学に関しては、109名の学生を本学から派遣し、128名を受け入れた（秋入学を含む）。

本学から海外へ留学した学生数は537名であった（図4）。

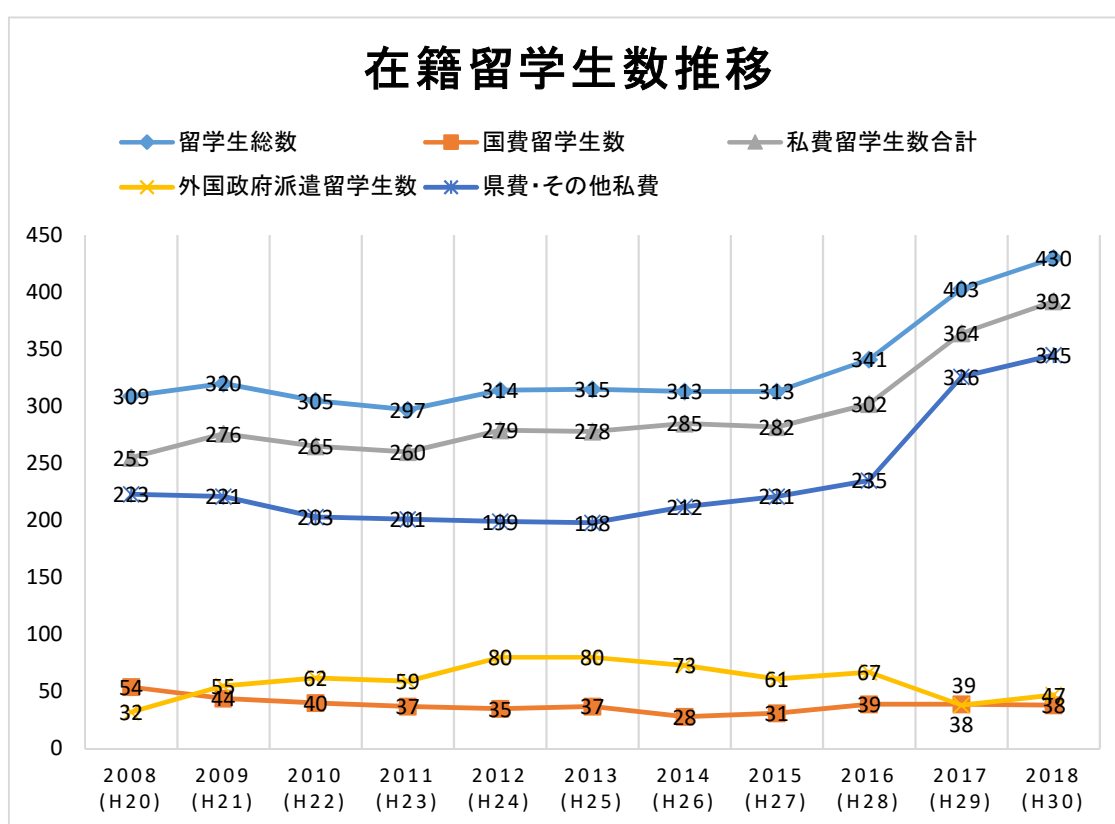


図1 在籍留学生数推移

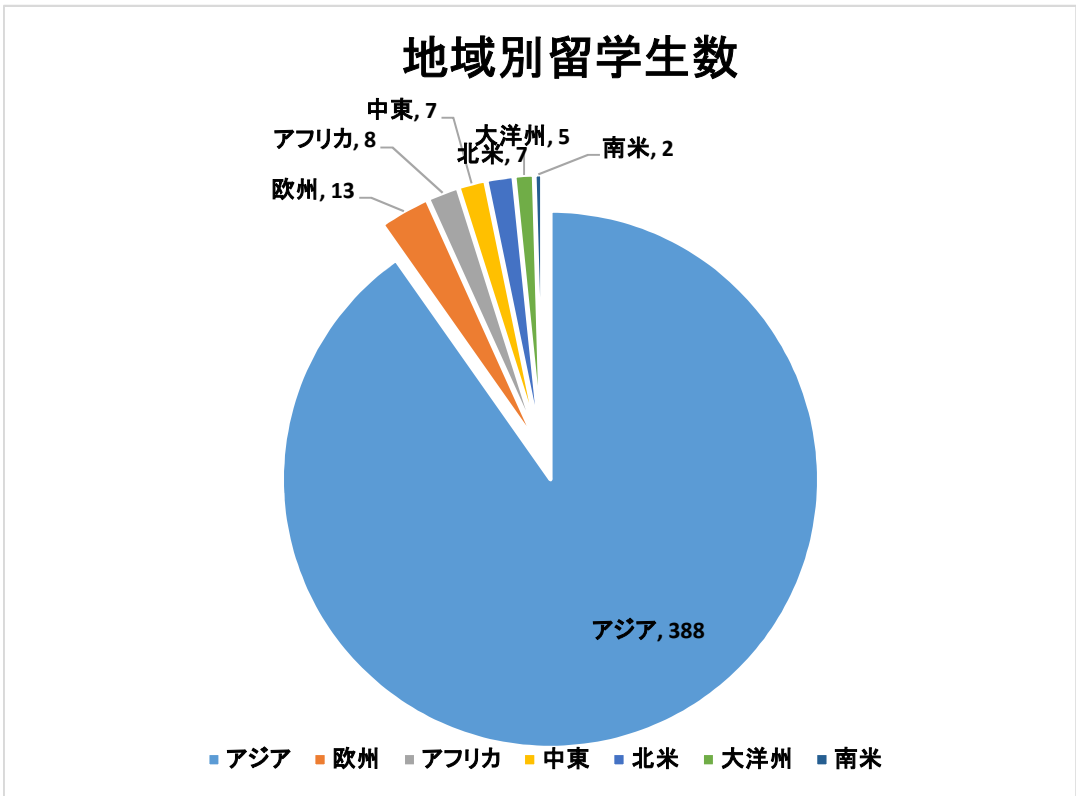


図 2 地域別留学生数

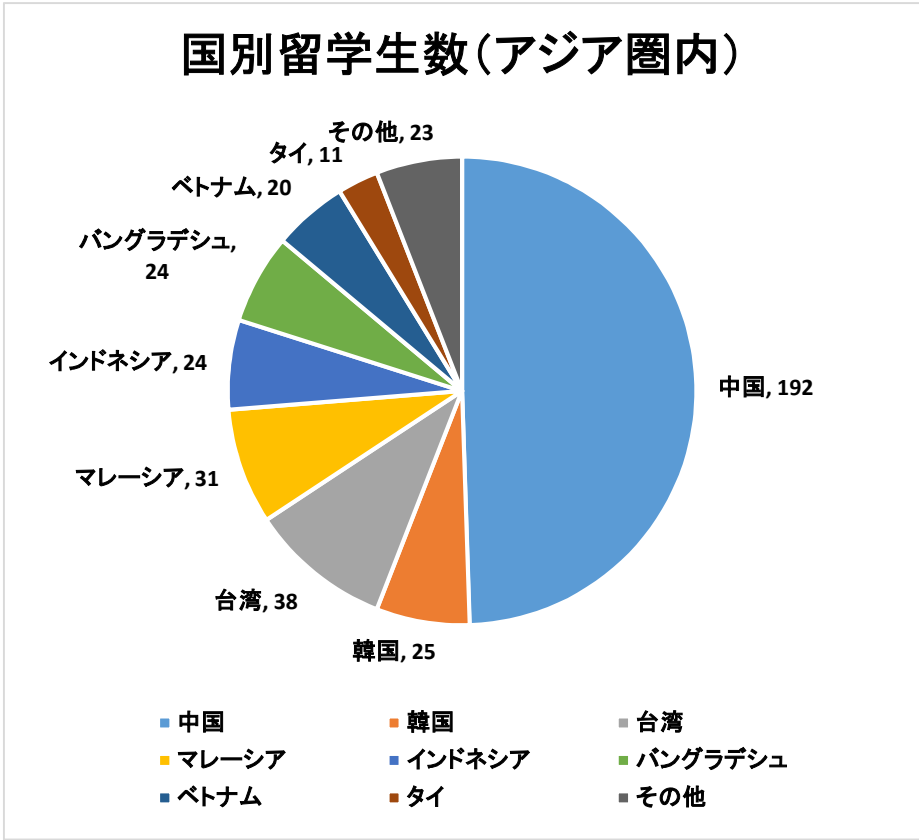


図 3 国別留学生数 (アジア圏内)

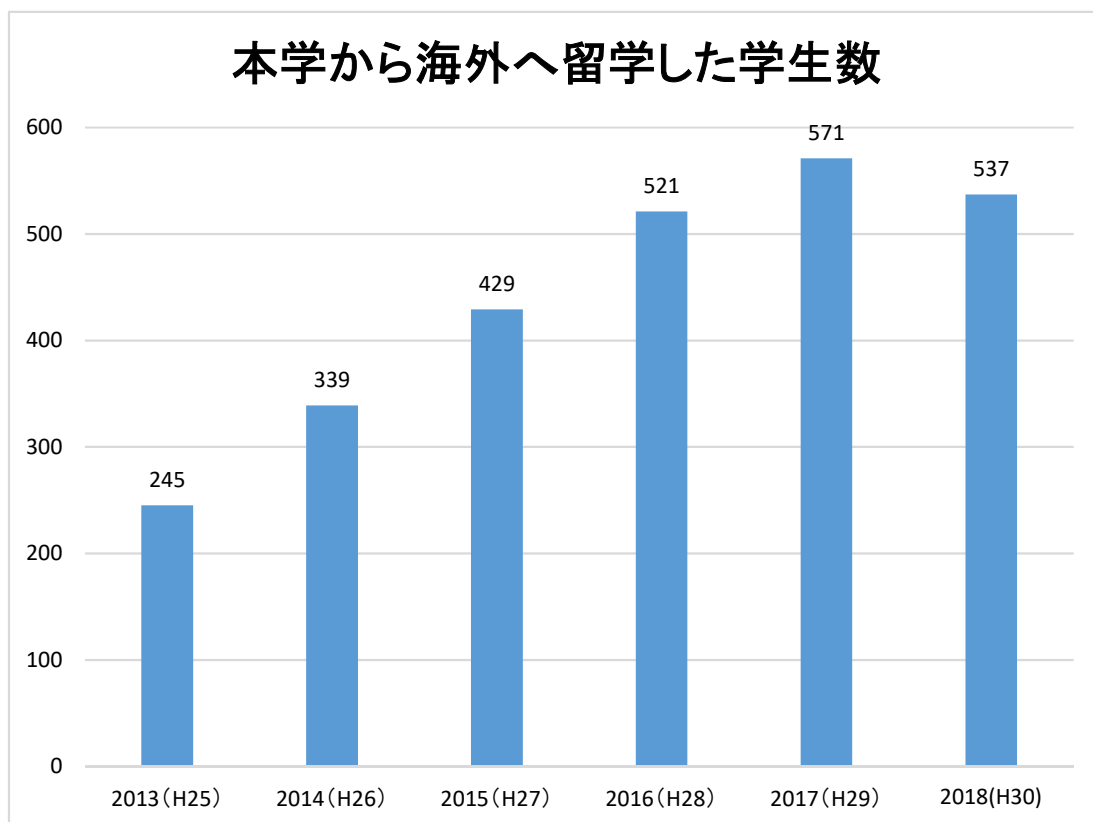


図4 本学から海外へ留学した学生数
(※独立行政法人 日本学生支援機構の「留学生調査」の集計基準に準ずる)

1. 山口大学 HP「トピックス」で見る 2018 年度の留学生部門の活動

○ 国際総合科学部交換留学生による業務体験研修を行いました

国際総合科学部では、JR 西日本広島支社にて、交換留学生 3 名による業務体験研修を 8 月 5 日（日）～9 日（木）まで実施しました。

これは交換留学生が日本企業の高い技術・高いサービスに触れることにより、日本企業が育んできた日本企業文化や日本の社会の一部を理解し、自身の経験を積むことが出来ることを考え、昨年に引き続き実施しました。

研修前の事前オリエンテーションでは、国際総合科学部レール教授による受け入れ先である JR 西日本広島支社の概要、インバウンド需要等の講話を行い研修に臨みました。

研修期間中は、「山口県における外国人のおもてなしの観点から、設備・案内に関する問題点を見つけ、改善に向けた提案」を意識しながら、観光列車の乗車体験、駅における接客業務、車両所見学を行い、留学生にとって、充実したカリキュラムとなりました。

最終日の報告会では、「山口県におけるインバウンド誘致を進めるための新たな施策の提案」として、留学生たちの山口県での実体験をもとに、観光スポットへの交通アクセス、外国人観光客への車内アナウンスを「丁寧な説明」から「簡潔なやさしい説明」を行うことや各国でよく使われている SNS の QR コードや ID を利用し、ヘルプサービスとともに観光案内をするという提案を行いました。

これは、留学生たちの留学・研修の中で感じた課題から考えられ、外国人観光客のリピーター獲得が狙えると想定されるものです。

また、受入側の JR 西日本広島支社から、山口県で印象に残った観光スポットを聞かれると、山口県を代表する観光スポット名が挙げられたり、観光スポットでの「ローマ字標記」の活用が挙げられたりと、日頃見過ごしてしまう大事なポイントについて、参加者は熱心に聞き入っていました。

この度の研修は、「平成 30 年 7 月豪雨災害」による業務多忙な中での手厚い研修であり、留学生たちも一生懸命取り組んでいる姿が印象的でした。



○ 山口大学の学生 11 名が「日中友好大学生訪中団」に参加しました

8月26日（日）～9月2日（日）の7日間、本学から選出された11名の学生が「日中友好大学生訪中団」として北京、杭州、上海を訪問しました。

この事業は、公益社団法人日本中国友好協会が主催する日本と中国の大学生が相互理解を深め、中国の生活文化に直接触れ、より客観的に中国を理解することを目的としたもので、今年度は山口大学に11名の推薦枠をいただいたものです。

訪問では、北京市対外友好協会の表敬訪問、北京大学を訪問し北京大学の学生と共に日本と中国の教育制度・経済・カルチャーについての意見交換や、今年で「日中平和友好条約締結」から40年になるのを記念して、日中両国の大学生約1,000人が参加する「日中大学生千人交流大会」に参加しました。

また、杭州大学を代表とする、浙江省の大学の日本語を専攻している学生との交流を行いました。山口大学から参加した学生11名は、日中パフォーマンス交流として、北海道の民謡である「ソーラン節」を披露しました。「ソーラン節」は中国でも有名であり中国の中学校でも踊るといふほどであり、中国の学生も「どっこいしょ」と掛け声を出し会場は大いに盛り上がりました。

この日中友好大学生訪中団に参加した教育学部2年の田中賢さんは、「一週間と長期間の訪中となりましたが、中国の同年代の学生と交流することを通して、かけがえのない友人を中国で作ることができ、充実した訪中になりました。」とコメントしました。



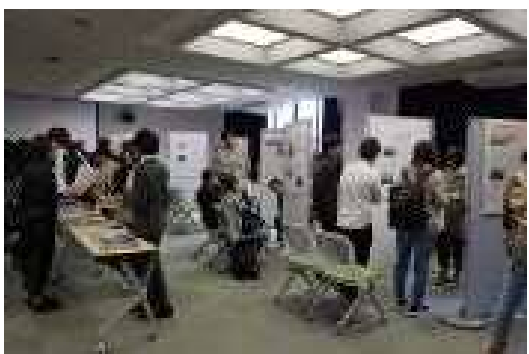
○ 「留学フェア」を開催しました

10月26日（金）から11月1日（木）まで吉田キャンパスを中心に「留学フェア」が開催されました。「留学フェア」は、本学学生の留学や海外経験を促進するために、派遣留学や語学研修、また奨学金についての紹介や、留学の体験談を聞く機会を設け、情報提供を行う目的で、今年初めて開催されました。

期間中は、共通教育棟で留学経験者が作成した留學生活紹介のポスター展示、また昼休みには留学地域・目的別の説明会が毎日行われ、昼食を摂りながらリラックスした雰囲気の中で貴重な経験を共有できました。その他、株式会社リクルートキャリア協力による「トビタテ！留学 JAPAN」の説明・体験談を含む「留学×キャリア」講座、本学国際連携オフィスで働くスタッフからのオフィス紹介など様々な行事が行われました。

一週間を通じて約 380 名の学生が来場、情報を提供することができました。

今後も山口大学では、ダイバーシティキャンパスの実現を目指して、学生の留学支援を推進してまいります。



2. 留学促進のための体制整備

(1) 留学生委員会の新設及び国際関係事務部門の統合

全学の留学生委員会を新たに設置し、受入・派遣双方向の国際交流学生拡大のための具体的検討及び実施を行うための体制を整備した。また増大する海外学生交流を実務的に支援するため、国際企画担当と海外学生交流担当の事務部門を統合し、留学対応支援事務の強化を図った。

(2) IELTS 学内受験の実施

欧米圏への交換留学希望学生の増加により、全学生を対象に IELTS の学内受験を実施することとした。平成 31 年度から年 2 回の実施や成績優秀者に対する奨学金支給の準備をすすめた。

(3) 留学生サポーター活動

平成 29 年度に立ち上げた「留学生サポーター」は、留学生の生活面のサポートを行うとともに、サポーター自身が企画した新留学生歓迎会やスポーツイベント等の交流行事を通じて日本人学生と留学生の交流をサポートしている。平成 30 年度には、前期 86 名、後期 90 名（H29 年度の 3 倍）の学生が登録し活動した。これにより、留学生との交流が促進されること、また日本人学生の異文化理解やコミュニケーション能力の向上につながり、海外留学への意識を醸成する環境を作ることができた。

(4) 山口大学基金事業「山口大学海外留学支援制度～はばたこう！山口から世界へ～」

派遣留学生 138 名に対し、計 13,370,000 円の奨学金の支給を行った。

3. 海外学生交流促進のための広報活動

(1) 国際連携オフィススタッフ研修の実施

協定校に設置した国際連携オフィスや卒業生ネットワーク等を活用した海外広報を充実させるため、10 月に 5 ヶ国・地域の国際連携オフィスのスタッフを大学に招いて研修を行った。同スタッフに本学の特色を実感してもらうとともに、他のオフィスや本学教職員との意見交換を行うことにより、各オフィスの今後の活動活性化に向けた具体的な課題を抽出し、自身のオフィスでの活動にフィードバックしてもらう機会を提供した。

(2) HP 上での国際連携オフィス紹介ページの拡充

大学 HP に各オフィスの詳細情報（担当者紹介やメッセージ、オフィスアワー等）を示した特設ページを日・英で作成し、大学のオフィス全体の PR も兼ねた WEB 広報コンテンツを創設した。

(3) 各国在外公館への広報活動

各国の駐日大使館・領事館や海外の高等教育機関・日本の在外公館等を訪問して本学の特徴を紹介し、海外機関と連携した研究の充実及び学生国際交流促進のための広報活動を行った。具体的には、在ベトナム日本大使館やベトナム科学技術省、インドネシアの財務省、教育省及び研究・技術・高等教育省、在日本のベトナム大使館や在福岡ベトナム領事館などである。

(4) 留学情報提供コーナーの新設

共通教育棟内に、日本人学生のための常設の「留学情報提供コーナー」を設置し、協定校のパンフレットを開架すると共に、月替わりで協定校の紹介ポスターを掲示する広報機能を新設した。

(5) 留学体験データベースの運用開始及び留学フェアの実施

留学経験者による留学体験データベースの供覧を吉田・常盤の両キャンパスで開始するとともに、日本人学生の海外留学経験を促進するため、10月下旬に留学フェアを開催した。留学フェアでは交換留学可能な大学の紹介展示をおこなうとともに、留学経験者からの報告会を実施し、さらに、海外オフィススタッフによる学生へのプレゼンテーション及び質疑応答の機会も設定するなどといった様々な企画を行い、日本人学生の留学への関心を喚起し、海外渡航学生を拡大するための取組を行った。

4. 留学生センターにおける学生派遣について

留学生センターにおける2018年度学生派遣実績は以下のとおりであった。

① 海外短期語学研修

- ・夏期（2018年8月から3週間または4週間）
リジャイナ大学（カナダ）12名、ロンドン大学（イギリス）8名、
北京師範大学（中国）1名
- ・春期（2019年2月から3週間または4週間）
リジャイナ大学6名、ニューカッスル大学（オーストラリア）2名

② 日本語教師アシスタントインターンシップ（2019.3.4-25）

大葉大学（台湾）4名

台湾国際連携オフィス及び同オフィスが立地する協定校大葉大学（台湾）と共同で、本学学生の日本語指導短期研修を実施。研修では、事前研修を受けた本学学生が台湾の学生に日本語を指導する一方、現地オフィスによる中国語講座・文化体験講座を受講するなど、相互恩恵型の特色ある研修となった。

第3章 2018年度の学術研究部門の国際交流活動

第3章 2018年度の学術研究部門の国際交流活動

独立行政法人日本学術振興会助成

1. 論文博士号取得希望者に対する支援事業

独立行政法人日本学術振興会が実施する、アジア・アフリカ諸国の優れた研究者が、日本の大学において大学院の課程によらず論文提出によって博士の学位を取得できるように支援する事業。

【研究課題】衛星リモートセンシングを使用したインドネシア降雨の研究

【研究期間】平成29年4月1日～平成32年3月31日

【山口大学実施部局】大学院創成科学研究科（工学系）

【山口大学担当教員】小河原 加久治（教授）

【相手方機関名（国・地域名）】ウダヤナ大学（インドネシア）

【相手方参加者】As Syakur Abd. Rahman（講師）

【事業概要】

インドネシア地域における熱帯降雨観測衛星 TRMM のデータを解析し、特にスマトラ島周辺の降雨日変化について研究を行う。

2018年度は、As Syakur Abd. Rahman 講師を42日間（2018.8.20-9.20, 2019.3.21-30）受け入れるとともに、山中大学研究員（総合地球環境学研究所）をインドネシアに5日間（2019.1.20-24）派遣し、研究指導を実施した。

【得られた成果】

山中大学研究員が論博研究者が所属するリモートセンシング・海洋科学センターを訪問し、スマトラ島周辺降雨の日変化解析に関する投稿論文の査読結果とその修正の方向性に関する議論を行うとともに、関連するインドネシア海大陸の降雨並びに日周期海陸風循環に関連する研究指導を実施した。

2. 研究拠点形成事業

日本において先端的かつ国際的に重要と認められる研究課題、または地域における諸課題解決に資する研究課題について、日本と世界各国の研究教育拠点機関をつなぐ持続的な協力関係を確立することにより、当該分野において世界的水準または地域における中核的な研究交流拠点の構築とともに、次世代の中核を担う若手研究者の育成を目的とする事業。

【研究課題】バイオ新領域を拓く熱帯性環境微生物の国際研究拠点形成

【研究期間】平成26年4月1日～平成31年3月31日

【本学中心実施部局】大学院創成科学研究科（農学系）

【本学担当教員・コーディネーター】山田 守 教授

【相手国側実施組織】

(1) タイ

拠点機関：カセサート大学

協力機関：ブラパ大学，チェンマイ大学，チュラロンコン大学，コンケン大学，モンクット王技術大学ラドクラバング校，モンクット王工科大学トンプリ校，マエフアーラン大学，マハサラカン大学，メイジョ大学，マヒドン大学，ナレスアン大学，フラモンクットクラオ医科大学，ソククラ王子大学，ラジャマンガラ工科大学タウンオク，ラジャマンガラ工科大学イサン，ランパイパニ教育大学，ラムカンヘン大学，シーナカリンウィロット大学，スラナリー工科大学，タマサート大学，タクシン大学，ウボンラチャタニ大学，パヤオ大学，ワライラク大学，タイ科学技術研究所，バイオテック，タイ王立科学会

(2) ドイツ

拠点機関：ベルリンボイト工科大学

(3) ベトナム

拠点機関：カントー大学

協力機関：ホーチミン市技術大学，タイドー大学，タンタオ大学，ベトナム国家農業大学，ニュエンタタン大学，科学技術ベトナムアカデミーバイオテクノロジー研究所

(4) インドネシア

拠点機関：ブラビジャヤ大学

協力機関：セプルフノペンベル工科大学，マタラム大学，ハイルン大学，ベテランスラバヤ大学，ガジャマダ大学，技術の評価と応用庁，インドネシア大学

(5) ラオス

拠点機関：ラオス国立大学

【事業概要】

本学は拠点大学交流事業（平成 10-19 年度）やアジア研究教育拠点事業（平成 20-24 年度）において熱帯性環境微生物資源（遺伝資源）に関する国際共同研究を実施し、「耐熱性微生物」の潜在能力開発や次世代型省エネ「高温発酵技術」の基盤技術構築など多くの先導的研究成果を挙げてきた。本事業では、従来の日・タイの拠点大学に、欧州や ASEAN 諸国の 4 拠点大学と 1 協力大学を加え、ゲノム解析を主体とした基礎微生物学及び生態学研究から技術開発研究までに亘る、さらに若手研究者の実践的教育をも含めた、「熱帯性環境微生物」を対象とする世界水準の先端研究拠点を目指す。

【得られた成果】

◆研究協力体制の構築

本学は拠点大学として、海外の拠点大学と協力して本事業を円滑に実施するために

コーディネーターと副コーディネーターを配置し、5つの研究課題のそれぞれにリーダーとサブリーダーを配置した。また、相手国拠点機関及び協力大学にもコーディネーターを配置して事業全体を掌握するネットワーク体制を構築した。

リーダーは研究課題のメンバーと連絡をとりながら、各年度の研究計画書や研究報告書を作成するとともに、各セミナーでの口頭発表候補者をコーディネーターに推薦する役割を担った。コーディネーターは海外の拠点大学のコーディネーターと相談して、最終的な口頭発表者を決定した。各共同研究グループから提出された年度計画に基づいて、研究者交流の候補者や各セミナー参加候補者を7カ国のコーディネーター間でメールによって相談し決定。サテライトセミナー時にコーディネーター会議を開催し、事業計画について意見交換を行うと同時に、各国の問題点等を共有し対策を協議。メンバー数の多い日本やタイでは、国内の運営委員会を頻繁に開催し、スムーズな事業運営に務めた。

◆学術的観点

共同研究を57件計画し、57件実施した。一方、一昨年度頃から多くの共同研究成果が学術論文として発表され、本事業活動が順調に推移していることが伺える。また、最終合同セミナーを含む4件のセミナーを計画し、全て実施し、成功裡に終わった。加えて、世界的拠点形成に向けて本事業に加わったインドネシア、ドイツ、イギリスとの交流の強化をすすめた。昨年引き続き Ristekdikti の支援でインドネシアから本事業関係者を含め20名の研究者が2ヶ月間日本を訪問し、それぞれの訪問先で共同研究を実施した。ドイツは、ワークショップ「Advanced Course in Fermentation Technology」（タイ側開催の活動であるため7-2セミナーには入れていない）をタイのチェンマイ大学で共同開催し、タイ、ベトナム、ラオスの多くの若手研究者が参加した。また、日本との間で修士学生の相互派遣を実施するとともに、インドネシアとのエタノール発酵生産工場への技術協力を行った。さらに、イギリスとは、シミュレーション解析等の共同研究を継続して実施した。タイ、インドネシア、ラオスとともに、e-ASIA 共同研究（JST 事業）としてバイオマスからの有用物質生産開発を実施した。

◆若手研究者育成

第15回若手研究者セミナーを山口市で開催し、日本人若手研究者39名、外国人若手研究者39名および講師や関連教員等が参加した。例年と同様に、多くの外国人若手研究者が参加するように JASSO 短期留学奨学金事業等と合同で実施した。本セミナーは日本人および留学生の大学院学生が中心となって企画・運営し、参加した全ての若手研究者が自身の研究成果等を英語で発表した。懇親会も開催し将来的な国際ネットワーク形成に繋がる機会となった。これ以外に多くの個々の共同研究と関連して

若手研究者育成を実施した。特に、海外メンバーが日本側共同研究室に滞在中、日本側の学生を含む若手研究者や学生は海外研究者との共同研究や Discussion 等によって貴重な体験をした。また、日本側メンバーも、海外の若手研究者の研究指導や博士課程学生の Co-Advisor 等を務めた。

第4章 2018年度の各部局での国際交流活動

第4章 2018年度の各部局での国際交流活動

人文学部

国際会議・講演会等の実施

- 国際公開シンポジウム「東アジアの古代都城と葬地・墓葬」
コンソーシアム京都キャンパスプラザ京都・龍谷大学大宮学舎（2018.9.15-17）
- 香港のポピュラーカルチャーに関する講演会（Bruce Lee's Legacy）
香港樹仁大学のベンジャミン・フロイデンベルグ先生を招へい
山口大学人文学部（2018.8.10）

学生海外研修の実施

- 人文学部海外調査研修
東呉大学（台湾）に10名派遣（2019.3.11-15）

教育学部

国際会議・講演会等の実施

- 「イラナ・ハルペリン：ロックサイクル（ヤマグチ）」プロジェクト
（平成30年度山口大学秋吉台アカデミックセンター活動）
イギリスから地質学とアートをテーマに活動を行うアーティストのイラナ・ハルペリン氏を招へい（2019.2.9-28）

学生海外研修の実施

- 理数教育に関する現地支援活動
カンボジアのシェムリアップ州教員養成校及び現地小学校3校に4名派遣
（2019.3.9-16）

その他

- 海外大学との合同オンライン授業（H30年度後期 国際理解教育演習）
ドイツ、スペイン、ブルガリア、オーストラリア、スウェーデンの大学と合同でのオンラインを活用し、教員像や学校教育について国籍混合グループでの討議とプレゼンテーション資料作りを行う授業を実施。
- 幼児期からの国際教育のプログラムの検討・実施・検証（山口市社会教育課の事業）
小学校で始まる英語教育に繋がることも視野に入れ、本学の留学生と幼児が触れ合いながら、効果的な国際教育の在り方を教育学部教員2名と国際総合科学部の教員1名と山口市社会教育課の担当者が協働して検討。2018年度も幼稚園・保育所で実践のためのプログラムを構築、実施し、その検証を進めた。二島・仁保・小鯖・名田島の各幼稚園から全3・4・5歳児、本学留学生約40名が参加。

- **創造的表現活動公開実践講座**

ザルツブルク・モーツァルテウム大学（オーストリア）から講師2名を招へいし、教育学部の学部生、教育学研究科の大学院生及び附属学校の教員も参加する小中等の現職教員のリカレント教育としても位置づけ、ことば、リズム、音楽の関係など、国際的な視点から創造的総合的な人間の表現とその指導について研修を行う場を提供。

(2018.8.26)

経済学部

国際会議・講演会等の実施

- **ワンアジア財団による平成30年度寄付講座**

バングラデシュ、ラオス、ネパール、インドから計5名の講師を招へい（2018.10月-12月）

学生海外研修の実施

- **観光政策学科プロジェクト演習**

フィリピン・バギオに2名派遣（2018.8.18-24）

中国に22名派遣（2018.9.1-7）

- **フィリピン英語研修**

夏期に25名、春期に9名派遣

- **職業会計人コース英語研修**

フィリピン・セブ島に夏期に8名、春期に2名派遣

その他

- **2018年度JICA青年研修(ヨルダン地方自治)**

ヨルダンから研修員6名受入（2018.9.3-14）

理学部

国際会議・講演会等の実施

- **国際研究集会"The Cut Locus 2018"**

東海大学札幌校舎（2018.9.3-9.6）

- **国際研究集会"Prospects of Theory of Riemann Surfaces"**

山口大学理学部（2018.11.30-12.2）

学生海外研修の実施

- **理学部学生海外派遣プログラム**

Telkom 大学（インドネシア）に1名派遣（2018.12.2-12.10）

台湾師範大学（台湾）に 11 名派遣（2019.3.12-3.20）

海外学生受け入れプログラム等の実施

- **理学部サイエンス・サマー・プログラム**
台湾大学，台湾師範大学（以上台湾），全南大学校，亜洲大学校（以上韓国），湖州師範学院，山東師範大学，浙江理工大学（以上中国）から計 30 名受入
(2018.8.22-8.30)
- **さくらサイエンスプラン**
コンケン大学（タイ）から学生 5 名と教員 4 名受入（2018.12.17）

医学部

国際会議・講演会等の実施

- **12th International Symposium on Nanomedicine (ISNM2018)**
山口大学医学部（2018.12.6-11）
- **12th International Symposium on Nanomedicine (ISNM2018)**
シティ・オブ・ホープ（米国）の Michael Kahn 教授を招へい
山口大学医学部（2018.12.7）
- **基盤系特別専門講義「糖尿病（Diabetes） and Insulin Receptor Signaling」**
シティ・オブ・ホープ（米国）の山口陽子教授を招へい
山口大学医学部（2018.6.1）

学生海外研修の実施

- **自己開発コース（医学科 3 年生）学生派遣**
ハーバード大学ジョスリン糖尿病センター（米国）に 2 名派遣（2018.7 月-12 月）
シティ・オブ・ホープ（米国）に 3 名派遣（2018.7 月-12 月）
ワシントン大学セントルイス校（米国）に 1 名派遣（2018.8 月-12 月）
ミシガン大学医学部（米国）に 2 名派遣（2018.7 月-12 月）
- **アジア・太平洋地域看護・健康科学リーダー育成連携（APAHL 事業）**
梨花女子大学（韓国）に保健学科から 10 名派遣（2018.6.17-20）

海外学生受け入れプログラム等の実施

- **医学部医学科短期研究プログラム**
スタンフォード大学（米国）から 1 名受入（2018.7.1-31）
パラツキー大学（チェコ）から 1 名受入（2018.7.23-27）
バース大学（英国）から 1 名受入（2018.7.1-2019.6.30）

- **医学部学生臨床実習プログラム**
ウダヤナ大学（インドネシア）から3名を受入（2018.11.12-12.7）
慶尚大学（韓国）から2名受入（2019.1.28-2.22）

工学部

国際会議・講演会等の実施

- **第6回 SP!ED プログラム**
群山大学（韓国）（2018.8.17-28）
- **忠北大学との第5回研究発表セミナー**
忠北大学（韓国）（2018.8.28-30）
- **群山大学との第10回研究発表セミナー**
山口大学工学部（2018.9.19-21）
- **大学生創成工学デザイン競技会（CEDC）2018, 創成教育研究国際会議（ICIARE）2018**
江蘇大学（中国）（2018.12.14-17）
- **第5回山口大学・サラゴサ大学（スペイン）・新リスボン大学（ポルトガル）国際共同シンポジウム**
山口大学（2019.3.25-27）

学生海外研修の実施

- **グローバル技術者涵養のための海外研修プログラム**
48名派遣
- **グローバル技術者養成のための海外研修プログラム**
18名派遣
- **グローバル技術者育成のための海外研修プログラム**
18名派遣

海外学生受け入れプログラム等の実施

- **交流協定に基づく短期インターンシップ**
カセサート大学（タイ）から8名受入（2018.6.1-7.27）
- **アダムス大学からの短期インターンシップ**
アダムス大学（インド）から1名受入（2018.5.28-7.31）
- **山口大学ーウボンラチャタニ大学遺伝子工学技術プログラム**
ウボンラチャタニ大学（タイ）から1名受入（2018.7.2-9.28）
- **山口大学ーシーナカリンウィロート大学バイオテクノロジー技術プログラム**
シーナカリンウィロート大学（タイ）から2名受入（2018.10.6-12.15, 2018.12.20-2019.1.15）

- リモートセンシングと人工知能による先端情報処理技術に関する学習と体験
マレーシアプトラ大学（マレーシア）から6名受入（2018.10.4-10.13）

その他

- **Erasmus+に基づく教職員の派遣・受入（派遣・受入先の大学では講義を実施）**
 - 【派遣】**
 - ティミショアラ大学（ルーマニア）教員1名（2019.3.1-8）
 - 新リスボン大学（ポルトガル）教員1名（2019.3.4-8）
 - 新リスボン大学（ポルトガル）教員1名（2019.3.11-15）
 - 【受入】**
 - アルガルベ大学（ポルトガル）教員2名（2018.7.16-20）
 - 新リスボン大学（ポルトガル）教員6名，カンタブリア大学（スペイン）教員2名（2019.3.25-29）
- **四川大学錦江学院との1+2プログラムの試行**
2018年10月に四川大学錦江学院（中国）の学生3名を研究生として受け入れ，2019年4月まで卒業論文指導を実施。一度帰国した後，山口大学の博士前期課程の入試を受験し，10月から本学博士前期課程に入学する予定。

農学部

国際会議・講演会等の実施

- **韓国農業経済学会（韓日シンポコメンテーター）**
全羅南道麗水市 ヒドゥンベイホテル（韓国）（2018.6.28-29）
- **Thailand Research EXPO**
バンコク（タイ）（2018.8.13）
- **Core to Core Program (CCP:研究拠点形成事業) Satellite Seminar**
ラオス（2018.10.23）
- **第2回 e-ASIA ミーティング**
ラオス（2018.10.24）
- **第15回若手研究者セミナー**
山口県セミナーパーク（2018.11.13-14）
- **CCP Final Joint Seminar**
山口大学大学会館（2018.12.2-4）

- **ALCA(先端的低炭素化技術開発)ワークショップ及び山口大学中高温微生物研究センターシンポジウム**

「The International Symposium on Cellular Responses, Adaptation and Fermentation in Stress Environments (ストレス環境下における細胞応答・適応・発酵)」

山口大学学生会館 (2019.3.4)

- **第5回重点連携大学セミナー** (山口大学, カセサート大学, チュラロンコン大学) チュラロンコン大学 (タイ) (2019.3.18)

学生海外研修の実施

- **JASSO 海外留学支援制度 (協定派遣)「熱帯性環境生物資源開発国際ネットワーク形成のための人材育成プログラム」**

カセサート大学, メージョー大学, コンケン大学, チュラロンコン大学, シーナカリンウィロート大学, ウボンラチャタニ大学 (以上タイ), ブラウイジャヤ大学 (インドネシア), カントー大学 (ベトナム) に計 16 名派遣

海外学生受け入れプログラム等の実施

- **JASSO 海外留学支援制度 (協定派遣)「熱帯性環境生物資源開発国際ネットワーク形成のための人材育成プログラム」**

カセサート大学, チェンマイ大学, コンケン大学, チュラロンコン大学, メイファールアン大学, メージョー大学, シーナカリンウィロート大学, ウボンラチャタニ大学 (以上タイ), カントー大学, 国立ベトナム農業大学 (ベトナム), ガジャマダ大学, ブラウイジャヤ大学 (以上インドネシア), 国立中興大学 (台湾), ジャハンギナガール大学 (バングラディシュ) から計 20 名受入

- **植物機能科学プログラム・微生物機能科学プログラム**
パラツキー大学 (チェコ) から 2 名受入 (2019.2.1-5.31)

その他

- 山口大学とカセサート大学間のジョイント・ディグリープログラム開設に関する協定の調印式を山口大学で実施 (2018.12)

共同獣医学部

国際会議・講演会等の実施

- **The first AJIVE (Association of Japan-Indonesia Veterinary Education) Symposium**
山口大学共同獣医学部 (2018.11.24)
- **The third International Symposium in Veterinary Science**

アイルランガ大学（インドネシア）（2019.2.8-9）

学生海外研修の実施

- 平成 30 年度中興大学講義・実習プログラム
中興大学（台湾）に 2 名派遣（2018.8.26-2018.9.8）
- 2018 年ジョージア大学短期臨床実習プログラム
ジョージア大学（米国）に 2 名派遣（2018.8.11-2018.8.24）
- バルセロナ自治大学短期臨床実習プログラム
バルセロナ自治大学（スペイン）に 1 名派遣（2018.9.2-2018.9.16）

海外学生受け入れプログラム等の実施

- 平成 30 年度中興大学からの派遣学生への講義・実習プログラム
中興大学（台湾）から 2 名受入（2018.8.19-2018.9.1）

国際総合科学部

学生海外研修の実施

- フィリピン短期語学研修
103 名派遣（2018.8.26-9.22）
- フィリピン・インターンシップ
英会話学校 QQ English に 4 名派遣
（2018.8.20-2019.1.25：3 名，2018.8.20-2019.1.22：1 名）
- 台湾インターンシップ
全台物流股份有限公司に 14 名派遣（2018.7.2-6）
- 韓国インターンシップ
トクヤマ코리아に 2 名派遣（2018.6.25-29）
- PBL（周防大島町）ハワイ研修
ハワイ大学カウアイコミュニティカレッジ等に 3 名派遣（2018.9.19-27）

その他

- 国際総合科学部交換留学生の業務体験研修
JR 西日本広島支社に 3 名派遣（2018.8.5-9）
山口市に 2 名派遣（2019.2.6-8，2.13-14）

技術経営研究科

国際会議・講演会等の実施

- MOT 国際シンポジウム（ISAME2018 in ダナン）

バンドン工科大学（インドネシア）、ダナン科学技術大学（ベトナム）、マレーシア工科大学、マラ工科大学（マレーシア）、チェンマイ大学（タイ）、山口大学の6大学が参加。

ダナン科学技術大学（ベトナム）（2018.5.8-10）

- **MOT 国際シンポジウム（ISAME2018 in 下関）**

バンドン工科大学（インドネシア）、ダナン科学技術大学（ベトナム）、マレーシア工科大学、マラ工科大学（マレーシア）、チェンマイ大学（タイ）、山口大学の6大学が参加。

山口県下関市（2018.11.27-29）

- **The 15th International Conference on Innovation and Management (ICIM) 2018**

山口県下関市（2018.11.27-29）

海外から102名を含む計162名が出席。

学生海外研修の実施

- **MOT と工学部の連携による理系大学院・学部を対象としたクロスボーダー型 PBL 研修**

マレーシア工科大学（マレーシア）に学生14名と教員1名派遣（2018.8.13-9.12）

- **MOT 社会人大学院を対象としたクロスボーダー型 PBL 研修**

マレーシア工科大学に学生13名と教員1名派遣（2018.11.11-16）

海外学生受け入れプログラム等（短期受入含む）の実施

- **学部生を対象としたクロスボーダー型 PBL（グローバルモビリティプログラム）研修**

マレーシア工科大学から学生39名と教員1名受入（2018.7.3-22）

- **グローバル MOT 短期研修**

マレーシア工科大学から学生4名受入（2018.11.27-30）

東アジア研究科

国際会議・講演会等の実施

- **第38回東アジア学術講演会「中国における検察機関による公益訴訟」**

西南政法大学（中国）の劉芸教授を招へい

山口大学東アジア研究科（2018.7.25）

- **第39回東アジア学術講演会 “Cultivation of Creativity in China’s Education in the Global Age”**

Baptist University（香港）の Wai-Chung Ho 教授を招へい

山口大学東アジア研究科（2018.8.3）

- **平成30年度山口大学大学院東アジア研究科東アジア国際学術フォーラム「成長するア**

アジアにおける教育と文化交流」

山口大学大学会館 (2018.12.8)

- 第40回東アジア学術講演会「宗教文化の公共性と東アジア交流の課題 ～無教会主義の伝播を中心として～」
山東大学 (中国) の陶冶氏を招へい
山口大学東アジア研究科 (2019.12.27)
- 第41回東アジア学術講演会「中国の日本研究：特色と課題 ―冷戦後を中心に―」
復旦大学 (中国) の胡令遠教授を招へい
山口大学東アジア研究科 (2019.3.15)
- 山口大学・山東大学共同シンポジウム
山東大学 (中国) (2019.3.21-26)

連合獣医学研究科

- 第10回東アジア獣医学研究に係るジョイントシンポジウム (岐阜大学)
教員4名, 学生5名を派遣し, 東アジア地域における獣医学関係の大学とのネットワークの強化を図った。
- Sapporo Summer Symposium of One Health (SaSSOH 2018) (北海道大学)
学生4名を派遣し, 他大学の大学院生・博士研究員・若手教員と研究交流を行い, それぞれが自身の研究についてポスターあるいは英語による口頭発表を行った。